

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 13 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19H04355

研究課題名(和文)世界の核被害の地域間比較研究：「いのち」、「こころ」、「くらし」の視点から

研究課題名(英文)Comparative Study on the Issues of Nuclear Global Disasters from the Viewpoint of Life, Livelihood and Mind

研究代表者

川野 徳幸(Kawano, Noriyuki)

広島大学・平和センター・教授

研究者番号：30304463

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,600,000円

研究成果の概要(和文)：カザフスタン、マーシャル、広島・長崎の核被害実態研究、補償内容の比較検討を行った。カザフ・セメイ地区ではアンケート調査等を継続し、核実験場を中心に広範囲にわたり直接・間接に影響があることを明らかにした。補償内容も考察。動物実験も行い、内部被ばくの実態を解明した。被爆者に関しては、新聞社・被団協データを用い被爆者の思いが重層的で複雑であることを明らかにした。被爆者で高頻度に見られる骨髄異形成症候群(MDS)の研究を展開し、造血器腫瘍の新たな発症機序を解明した。コロナ禍で顕在化した「社会的弱者」を含む核被害者の精神的影響が深刻である実態も明示した。援護政策の比較検討を行い、その異同を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、特に、次の二点に集約される。いまだ終息していない、福島第一原発事故被災者の福利厚生を考える際に、ここでの研究成果は重要な示唆を与える。被ばく被害の実態とは何か、そして被災者は何を求め、どういった補償内容が必要なのか。これらを考える上で重要な視点を提示するからだ。「ヒロシマ」の今日的課題である「被爆体験継承」には何が必要かを考える際に重要な視点を提供する。本研究の過程において、各地域の核被害では、被害の継承のためにどういった取り組みがあるのか、を知ることが出来るからである。社会的意義は、本研究の成果が「核なき世界」を国是とする本国の理論的支柱となりうるという点である。

研究成果の概要(英文)：We researched the nuclear damage in Kazakhstan, the Marshall Islands, and Japan. Regarding Semipalatinsk, continued questionnaire surveys and other research revealed that direct and indirect effects had spread over a wide area around the nuclear test site. The contents of Kazakhstan's compensation policy were also examined. Animal and other experiments revealed the state of internal radiation exposure. Concerning hibakusha, using newspaper and Hidankyo questionnaire surveys, we found their perspectives and feelings to be complex and multilayered. We also expanded research on the high incidence of myelodysplastic syndrome in hibakusha and discovered a new onset mechanism of hematopoietic tumors. We found that the COVID-19 pandemic aggravated the psychological burden on the socially vulnerable individuals, such as hibakusha. We comparatively examined the contents of the compensation policies for nuclear victims enacted in different states and clarified their (dis)similarities.

研究分野：社会学

キーワード：核被害 広島・長崎 セメイ チェルノブイリ マーシャル

1. 研究開始当初の背景

本研究の申請者は、2002年より、旧ソ連の核実験場であったカザフスタン共和国セメイ（ロシア語：セミパラチンスク）の核被害の実態解明に取り組んできた。具体的には、被災者を対象にアンケート及び証言収集調査を実施し、被災者の「いのち」「こころ」「暮らし」の三視点からその被害の実態を調査研究してきた。それは、被ばく被害の全体像は、被災者の健康（いのち）、経済的社会的な生活（暮らし）、精神（こころ）を総合的に検討しなければならないからである。2002年以前には、セミパラチンスク地区に関していえば、医科学、放射線生物物理学に特化し、「いのち」に関する調査研究に主眼があった。従って、同地区での放射線被ばくによる心的被害、社会的被害も含めた総合的な被害の実態に接近する研究はなかった。そのため本研究代表者は、社会学的手法を用い、同地区住民の核被害の総合的解明に取り組んできたのである。2004年以降、5件の科学研究費（若手B、基盤研究Cが2件、基盤研究Bが2件、何れも代表）が採択され、調査研究を進め、多くの研究成果を学術誌に発表してきた。セメイ被災者の具体的な核実験体験（爆風、熱線など）、同地区特有の核実験体験、核実験体験による心的外傷、核実験体験の有無が爆心地からの距離に左右されている可能性、放射線被ばく後に発症するMDSではRUNX1/AML1遺伝子変異が高頻度に見られるが、核実験場周辺住民のMDSにもRUNX1変異が高頻度に認められること、などを解明してきた。本研究では、各地域の核被害の専門家チームを組み、同時に医科学、放射線物理学、統計学の研究者にも参画してもらい、医学、物理学、社会学という総合的な視点で、各地域の核被害を再検証し、その上で、比較検討することを目指した。加えて、「その後」の補償問題も比較検討し、今後の「フクシマ」を考える上で、有益な情報を提示する目標も立てた。さらに、ヒロシマ・ナガサキの今日的緊急課題である被爆体験継承を考える際にも有益な示唆も得たいと考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、世界の核被害の実態を整理、検証、考察し、各核被害及び補償内容の異同を比較検討することにある。具体的に対象とする地域または核被害は、次の通りである。カザフスタン共和国セメイ地区、ウクライナ・チェルノブイリ、マーシャル諸島、広島・長崎の原爆被害、である。被害の実態については、「いのち」「暮らし」「こころ」の各視点でそれぞれ整理し、その上で比較検討する。同時に、被害の実態を比較するばかりではなく、その後の被災者への補償内容についても比較検討する。それに関しては、日本における「原子爆弾被爆者に対する援護に関する法律」（いわゆる「被爆者援護法」）を軸に、補償の各項目に関する比較検討を行う。本研究により、各地域の補償内容を含む核被害の全貌とその特徴を明らかにする。以上が本研究の目的であった。但し、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、セメイでの調査は延期を余儀なくされ、同時に、ウクライナ調査に関しては、ロシアの軍事侵攻の影響で途中から断念せざるを得なかった。

3. 研究の方法

セメイの核被害：従来から実施している同地区でのアンケート調査・証言収集調査を継続するとともに、これまで収集したアンケート結果の統計学的分析を進める。同時に動物実験を用いた低線量被ばくと内部被ばくの実態解明研究を展開する。本調査に関しては、セメイ医科大学、カザフ医学環境研究所及びIVプラス総合病院の全面的協力を得て行う。チェルノブイリ原発事故被災者へのインタビュー調査：旧プリピャチ住民の互助団体「ゼムリヤキ」の全面的協力を得て、聞き取り調査を実施する。同時に、従来集めた聞き取りデータは、データマイニング、クラスター分析などを援用した統計学的分析を行い、その特徴を検討する。マーシャル諸島：竹峰研究分担者を中心に、ロンゲラップ島の被災者に三視点から話を聞くほか、核問題に詳しい現地の政治家、行政スタッフに対して聞き取りを行う。さらに、同地域住民への補償内容について考察する。広島・長崎の原爆被害：朝日新聞・読売新聞実施の被爆実態アンケート調査結果を援用し、被爆者の思い、健康不安、心的影響、それらの背景要因、被爆者が受けてきた差別問題などを検討する。アンケート結果については、各回答者の傾向および回答結果の背景を探るため、ロジスティック重回帰分析などを用いる。同調査で得た証言については、多次元尺度法、対応分析などを用いて分析する。被爆者で高頻度に見られる骨髓異形成症候群の研究を展開し、造血器腫瘍の新たな発症機序を解明する。本研究の主目的である各核被害地の補償内容の比較検討を行う。本研究により、「いのち」「暮らし」「こころ」の要素に対して、それぞれの核被害の特徴、異同等を明らかにする。

4. 研究成果

セメイの核被害研究：核実験場近郊のウルジャル地区のウルジャル、ココゼック、クズルトゥ、ジャナイなどの村において、住民を対象にアンケート調査・証言収集調査を実施した。現在、従来の回収分も含めてアンケート結果の解析作業を継続しているが、同時に、従来の調査結果を用い、その成果を幾つかの論文でまとめた。また、学会（日本平和学会など）での発表も行った。

核実験は、核実験場周辺住民に、特に大きな心的影響を与えている実態を明らかにしたが、そればかりではなく、障害のある子どもを持つ親にとって、その障害が核実験に起因するのではないのかという強い思いがあることも明らかにした。カザフスタンの援護措置についても考察を深め、「補償金の一括支払い」、「年金と給与の加給」、「有休と産休の追加措置」を主な特徴としており、一時的な経済援助にとどまらず、生涯にわたる被災者援護を目指していることを明らかにした。カザフスタン援護措置の特徴のひとつは、子どもやその保護者、また妊産婦への支援が明文化されている点である。「障害もしくは疾病を持ち、その健康状態と本法律に示された地域に両親の一方が滞在した事実との間に因果関係の認められる」子ども、という条件付きではあるが、現代の子どもが過去の核実験によって何らかの影響を被る可能性を認めた内容となっている。この事実は、今後具体化されていくであろう核兵器禁止条約第6条(被害者に対する援助及び環境の修復)及び第7条(国際的な協力及び援助)における「被害者」とは誰かを定義するにあたり、重要な示唆を与えるものである。これらの成果の一部は、『環境と公害』(岩波書店)などで発表した。また、いわゆる被ばく2世、3世に対するカザフスタンの援護措置の具体的内容についても調査研究を開始したところである。

カザフスタンのセメイ核実験場周辺で放射線影響研究を行ってきた。それらには、土壌の測定と線量評価、動物実験による放射性微粒子の影響がある。その他、ウラン鉱山地帯のラドンの測定も行った。結果として、放射性微粒子の動物実験では、ラットの肺に与える新たな影響を見だし、外部被曝と比べて20倍も大きいことを発見した。またアクス村のラドンの測定では、ほとんどの民家で規制値を超えていることがわかった。一連の研究は、Radiation and Environmental Biophysicsのようなインパクトファクター付き雑誌で発表した。

セメイとコロナ禍で顕在化した「社会的弱者」の精神的影響についても多くの論考を行い、数多くの研究成果を挙げた。セメイにおける自殺研究、新型コロナウイルス感染症と自殺との因果関係など貪欲に研究し、それらの研究の重要性を明示した。その成果は業績一覧に示す通りである。

原爆関連の調査研究：朝日新聞・読売新聞実施の被爆実態アンケート調査結果を援用し、被爆体験とトラウマに関する論考を行った。また、両紙のデータベース追加構築も行った。また、両紙及び日本被団協データを用い、被爆者の思いについて論考を深めた。例えば、被爆証言を用いた研究では、「失われ、変化した記憶の場」や「避難を連想する乗り物とルート」に特化して対物・对人的記憶の変遷と変化の要因を考察した。被爆者の思いについては、国家賠償、原爆投下の責任という視点から、証言を読み解き、「原爆被害」・「国の戦争責任」・「核兵器廃絶」という概念は、国家補償要求に強く関連するということを指摘した。この研究成果は、インパクトファクター付国際誌(Global Policyなど)に投稿し、掲載された。

また、全国紙と共同で「学生平和意識調査」を実施し、学生の平和意識について調査研究を行った。その調査結果を用い、特に、「ウクライナ戦争」前後での平和意識の変化について論じた。そこで明らかになったことは次の通りである。「核兵器廃絶への期待値は減少し核兵器削減に重きを置く傾向が伺える」、「ロシアの核兵器使用の可能性が反映した結果かもしれないが、核兵器禁止条約への期待値は高まり、日本の署名・批准、そしてオブザーバー参加を支持する回答が増加」、「北朝鮮・中国といった近隣諸国への脅威は増し、核抑止は機能するという回答者が増加」、「差し当たり、被爆地の理想である核なき世界(核兵器廃絶)という思想・思考は4割以上を維持し」、「核兵器削減と合わせて約77%が廃絶・削減を支持」。他方、「近隣諸国に対する脅威は増し、核抑止に対する肯定的な考え方が増大」、「核なき世界を実現する一つの方途(国際法)と捉えられている(特に被爆地で)核兵器禁止条約に対しては、期待値が高まっている」といったことである。本調査については、継続していく予定である。

医科学的側面からは、原爆被爆者で高頻度にみられる血液がんの一つである骨髄異形成症候群において、責任遺伝子変異の種類に拘わらず造血幹細胞のミトコンドリアの過剰な断片化が、共通の分子機構であることを患者検体やマウスモデルを用いた解析で明らかにした。さらに、被爆者でみられる血球減少症などクローン性造血を有する状態でもミトコンドリアの過剰断片化が生じていることを見出した。放射線後障害としての造血器腫瘍の新たな発症機序を解明した。これらの成果は、業績一覧に記載の通り、国際誌を中心に発表した。

マーシャル諸島の核被害研究：米・英・仏の核実験が繰り返される一方で、非核地帯条約を締結した太平洋諸島地域と核兵器に関する調査、核兵器と地気球環境問題の交差性に関する調査核兵器禁止条約がもつ意義を世界の核被害者の観点から指摘するとともに、同条約で核被害者の援助と国際協力が規定されたことを踏まえて、マーシャル諸島を中心に世界の核実験被害地の補償制度の比較調査を行った。また、環境社会学が築いてきた公害研究の知見を活かして、マーシャル諸島の米核実験被害調査に関する考察を進めた。その成果を「環境社会学からの軍事問題への接近」と題した特集論文に寄稿し、環境社会学で軍事研究に関する新たな研究分野を開拓していく一里となった。さらに、マーシャル諸島を中心に被災者への補償内容を考察した。

統計学分野：和泉は一般化線形モデルの枠組みの中で、時間に関して変化する係数のモデルを

用いた解析方法を検討し、テキストデータ、量的データおよび質的データに応用し、解析方法の特性を考察し、被爆者・被災者の特徴を論じる際の統計手法の開発も行った。

チェルノブイリ調査研究：2019年9月にウクライナ・キエフへ出張し、チェルノブイリ原発事故被災者へのオーラルヒストリーを実施し、その後、校正を終了した。その後は、ロシアの軍事侵攻によって中断を余儀なくされている。

*本研究の主目的の一つである比較研究：セメイ、マーシャル及びその他の被害地における補償措置の比較検討を『環境と公害』とCPHU Research Series No.35で発表した。マーシャル諸島、フランス、カザフスタンなどにおける核実験による被害及び補償制度をまとめ、その異同について特徴を論じた。いわゆる「被爆者援護法」が社会保障として生存者の健康被害に対する措置が主であり、医療給付と手当の支給が柱となっている。加えて、福祉事業として被爆者相談事業が確立しているが、その他の地域ではそういったものは存在しない。また、日本の場合、米政府の加害者としての負担はないが、マーシャル諸島では、核実験を実施した米政府に補償する責任を認めさせ、費用負担をさせている点などに注目し論じた。しかしながら、それは米国の国防にマーシャル諸島の人々が貢献したという報償の倫理からであった。マーシャル諸島の場合、土地の環境汚染に伴う被害にも目が向けられている。土地の汚染とそこにはじまる核被害の連鎖も、補償対象に含まれてきたからである。この意味において、カザフスタンの補償に対する基本的な考え方と共通している点を見出した。以上は考察した一部であるが、比較研究によって、各補償内容の特徴もさらに明らかになったのである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計108件（うち査読付論文 99件 / うち国際共著 43件 / うちオープンアクセス 79件）

1. 著者名 Fujita Yasuyuki, Inoue Ken, Kawano Noriyuki, Noso Yoshihiro, Chaizhunusova Nailya, Ospanova Nargul, Seksenbayev Nursultan, Moldagaliyev Timur, Tokesheva Aigul, Zhunussov Yersin T., Takeichi Nobuo, Hoshi Masaharu, Ohira Yoshiyuki	4. 巻 72
2. 論文標題 The need for detailed study of course credit earned and the comprehension of material by college students as a result of major changes in university course formats due to COVID-19 and actions based on those findings	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Maritime Health	6. 最初と最後の頁 245 ~ 246
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5603/IMH.2021.0047	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Fujita Yasuyuki, Inoue Ken, Seksenbayev Nursultan, Chaizhunusova Nailya, Hoshi Masaharu, Kawano Noriyuki, Takeichi Nobuo, Moldagaliyev Timur, Ospanova Nargul, Tokesheva Aigul, Zhunussov Yersin T., Noso Yoshihiro, Ohira Yoshiyuki	4. 巻 72
2. 論文標題 Early detection of excessive stress in people due to the ongoing COVID-19 pandemic: studies including those using biological markers	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Maritime Health	6. 最初と最後の頁 143 ~ 144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5603/IMH.2021.0025	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Inoue Ken, Ohira Yoshiyuki, Kawano Noriyuki, Takeshita Haruo, Hashioka Sadayuki	4. 巻 72
2. 論文標題 Seeking to address issues with COVID-19 vaccines in Japan and to resolve global problems with vaccination programmes	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Maritime Health	6. 最初と最後の頁 142 ~ 142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5603/IMH.2021.0024	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Inoue Ken, Seksenbayev Nursultan, Chaizhunusova Nailya, Moldagaliyev Timur, Ospanova Nargul, Tokesheva Sholpan, Zhunussov Yersin T., Takeichi Nobuo, Noso Yoshihiro, Hoshi Masaharu, Kawano Noriyuki	4. 巻 18
2. 論文標題 An Exploration of the Labor, Financial, and Economic Factors Related to Suicide in the Republic of Kazakhstan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health	6. 最初と最後の頁 6992 ~ 6992
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph18136992	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 VASILEVA Vladisaya Bilyanova, KAWANO Noriyuki	4. 巻 43
2. 論文標題 An Examination of the Meaning of Atomic-Bomb Survivors' Demands for State Compensation from the Japanese Government: Based on 2005 and 2009 Nihon Hidankyo Surveys	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Hiroshima Peace Science	6. 最初と最後の頁 107 ~ 128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/52221	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 川野 徳幸, ファンデルドゥース ルリ	4. 巻 43
2. 論文標題 「被爆76年学生平和意識オンライン調査」の集計結果	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 広島平和科学	6. 最初と最後の頁 129 ~ 143
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/52222	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 川野徳幸	4. 巻 36
2. 論文標題 核兵器禁止条約と「ヒロシマ」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 創大平和研究	6. 最初と最後の頁 49 ~ 66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Temocin Pinar, Kawano Noriyuki	4. 巻 7
2. 論文標題 Peace and Nuclear-free Advocacy Revisited: Lessons from New Zealand and Implications for Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Nuclear Security	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7290/ijns07j7j1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Hashioka Sadayuki, Inoue Ken, Otsuki Koji, Hayashida Maiko, Wake Rei, Kawano Noriyuki, Takeshita Haruo, Inagaki Masatoshi	4. 巻 14
2. 論文標題 Contribution of "Genuine Microglia" to Alzheimer's Disease Pathology	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Frontiers in Aging Neuroscience	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnagi.2022.815307	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 平林 今日子, 若尾祐司・木戸衛一編	4. 巻 57
2. 論文標題 民衆運動の可能性と研究者の責務: 「見えない恐怖」の中で何を見るのか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 平和研究	6. 最初と最後の頁 173 ~ 178
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.50848/psaj.57009	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 van der Does, L.	4. 巻 23
2. 論文標題 Updating Memories and Personal Views on Peace: Insights from a Collection of Hibakusha Surveys and Interviews 1986-2020	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Praxis	6. 最初と最後の頁 79-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sadato Daichi, Hirama Chizuko, Kaiho-Soma Ai, Yamaguchi Ayaka, Kogure Hiroko, Takakuwa Sonomi, Ogawa Mina, Doki Noriko, Ohashi Kazuteru, Harada Hironori, Oboki Keisuke, Harada Yuka	4. 巻 16
2. 論文標題 Archival bone marrow smears are useful in targeted next-generation sequencing for diagnosing myeloid neoplasms	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 0255257-0255257
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0255257	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ureshino Hiroshi, Kurahashi Yuki, Watanabe Tatsuro, Yamashita Satoshi, Kamachi Kazuharu, Yamamoto Yuta, Fukuda-Kurahashi Yuki, Yoshida-Sakai Nao, Hattori Naoko, Hayashi Yoshihiro, Kawaguchi Atsushi, Tohyama Kaoru, Okada Seiji, Harada Hironori, Ushijima Toshikazu, Kimura Shinya	4. 巻 20
2. 論文標題 Silylation of Deoxynucleotide Analog Yields an Orally Available Drug with Antileukemia Effects	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Molecular Cancer Therapeutics	6. 最初と最後の頁 1412 ~ 1421
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1158/1535-7163.MCT-20-1125	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamamoto Keita, Najima Yuho, Iizuka Hiroko, Harada Yuka, Sadato Daichi, Kanai Akinori, Matsui Hirota, Inamoto Kyoko, Mukae Junichi, Shingai Naoki, Toya Takashi, Igarashi Aiko, Shimizu Hiroaki, Kobayashi Takeshi, Kakahana Kazuhiko, Sakamaki Hisashi, Ohashi Kazuteru, Harada Hironori, Doki Noriko	4. 巻 144
2. 論文標題 Successful Cord Blood Transplantation for Idiopathic CD4+ Lymphocytopenia	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Acta Haematologica	6. 最初と最後の頁 698 ~ 705
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1159/000516347	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Adachi Hiroto, Sadato Daichi, Toya Takashi, Hirama Chizuko, Haraguchi Kyoko, Mukae Junichi, Shingai Naoki, Shimizu Hiroaki, Najima Yuho, Kobayashi Takeshi, Okuyama Yoshiki, Oboki Keisuke, Harada Hironori, Sakamaki Hisashi, Ohashi Kazuteru, Harada Yuka, Doki Noriko	4. 巻 195
2. 論文標題 Donor derived gene mutations in sex chromosome loss after stem cell transplantation	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 British Journal of Haematology	6. 最初と最後の頁 142-146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/bjh.17716	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kurosawa Shuhei, Toya Takashi, Sadato Daichi, Hishima Tsunekazu, Hirama Chizuko, Najima Yuho, Kobayashi Takeshi, Haraguchi Kyoko, Okuyama Yoshiki, Oboki Keisuke, Harada Hironori, Sakamaki Hisashi, Ohashi Kazuteru, Harada Yuka, Doki Noriko	4. 巻 2
2. 論文標題 Mutation profiles of diffuse large B cell lymphoma transformation of splenic B cell lymphoma/leukemia, unclassifiable on whole exome sequencing	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 eJHaem	6. 最初と最後の頁 854 ~ 860
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/jha2.315	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shinoda Daisuke, Nakajima-Takagi Yaeko, Oshima Motohiko, Koide Shuhei, Aoyama Kazumasa, Saraya Atsunori, Harada Hironori, Rahmutulla Bahityar, Kaneda Atsushi, Yamaguchi Kiyoshi, Furukawa Yoichi, Koseki Haruhiko, Shimoda Kazuya, Tanaka Tomoaki, Sashida Goro, Iwama Atsushi	4. 巻 36
2. 論文標題 Insufficiency of non-canonical PRC1 synergizes with JAK2V617F in the development of myelofibrosis	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Leukemia	6. 最初と最後の頁 452 ~ 463
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41375-021-01402-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sunami Yoshitaka, Yokoyama Takashi, Yoshino Seiko, Takahara Tomoko, Yamazaki Yukari, Harada Hironori, Nakamura Takuro	4. 巻 6
2. 論文標題 BCL11A promotes myeloid leukemogenesis by repressing PU.1 target genes	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Blood Advances	6. 最初と最後の頁 1827 ~ 1843
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1182/bloodadvances.2021004558	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Aoyagi Yasushige, Hayashi Yoshihiro, Harada Yuka, Choi Kwangmin, Matsunuma Natsumi, Sadato Daichi, Maemoto Yuki, Ito Akihiro, Yanagi Shigeru, Starczynowski Daniel T, Harada Hironori	4. 巻 12
2. 論文標題 Mitochondrial Fragmentation Triggers Ineffective Hematopoiesis in Myelodysplastic Syndromes	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Cancer Discovery	6. 最初と最後の頁 250 ~ 269
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1158/2159-8290.CD-21-0032	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Yamatani Kotoko, Ai Tomohiko, Kinjo Sonoko, Ikeo Kazuho, Ruvolo Vivian, Zhang Weiguo, Mak Po Yee, Kaczkowski Bogumil, Harada Hironori, Katayama Kazuhiro, Sugimoto Yoshikazu, Myslinski Jered, Hato Takashi, Miida Takashi, Konopleva Marina, Hayashizaki Yoshihide, Carter Bing Z., Tabe Yoko, Andreeff Michael	4. 巻 18
2. 論文標題 Inhibition of BCL2A1 by STAT5 inactivation overcomes resistance to targeted therapies of FLT3-ITD/D835 mutant AML	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Translational Oncology	6. 最初と最後の頁 101354 ~ 101354
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.tranon.2022.101354	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Ruslanova Bakhyt, Abishev Zhaslan, Chaizhunussova Nailya, Shabdarbayeva Dariya, Tokesheva Sholpan, Amantayeva Gaukhar, Kairkhanova Ynkar, Stepanenko Valeriy, Hoshi Masaharu, Fujimoto Nariaki	4. 巻 43
2. 論文標題 Hepatic Gene Expression Changes in Rats Internally Exposed to Radioactive ⁵⁶ MnO ₂ Particles at Low Doses	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Current Issues in Molecular Biology	6. 最初と最後の頁 758 ~ 766
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/cimb43020055	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Inoue Ken, Kawano Noriyuki, Takeichi Nobuo, Noso Yoshihiro, Hoshi Masaharu	4. 巻 15
2. 論文標題 A combined scientific and public health approach is needed to evaluate the health impacts of internal exposure to radiation	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Lancet Regional Health - Western Pacific	6. 最初と最後の頁 100296 ~ 100296
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.lanwpc.2021.100296	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ken Inoue, Yoshiyuki Ohira, sadayuki Hashioka, Nobuo Takeichi, Yoshihiro Noso, Shigeto Moriwaki, Yuri Murayama, Takuji Inagaki, Haruo Takeshita, Yasuyuki Fujita, Masaharu Hoshi	4. 巻 21 (96)
2. 論文標題 Suicide trends among the employed in Tokyo, capital of Japan, and the direction of suicide prevention measures based on the epidemiology of suicide	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of St. Marianna Medical Institute	6. 最初と最後の頁 4-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Fujimoto Nariaki, Ruslanova Bakhyt, Abishev Zhaslan, Chaizhunossova Nailya, Shabdarbayeva Dariya, Amantayeva Gaukhar, Farida Rakhimzhanova, Sandybayev Marat, Nagano Kasuke, Zhumadilov Kassym, Kaprin Andrey, Ivanov Sergey, Stepanenko Valeriy, Hoshi Masaharu	4. 巻 11
2. 論文標題 Biological impacts on the lungs in rats internally exposed to radioactive 56MnO2 particle	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-021-90443-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Inoue Ken, Kawano Noriyuki, Takeichi Nobuo, Noso Yoshihiro, Hoshi Masaharu	4. 巻 15
2. 論文標題 A combined scientific and public health approach is needed to evaluate the health impacts of internal exposure to radiation	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Lancet Regional Health - Western Pacific	6. 最初と最後の頁 100296 ~ 100296
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.lanwpc.2021.100296	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松宮敬広, 和泉志津恵, 畑山満則	4. 巻 14
2. 論文標題 高校生のためのデータ駆動型の授業デザインと実践 - 地域の課題から気づきが生まれるデータサイエンス教育 -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 統計教育実践研究	6. 最初と最後の頁 102-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Klegeris Andis, Hashioka Sadayuki, McLarnon James G	4. 巻 18
2. 論文標題 Diversity and Regulation of Astrocyte Neurotoxicity in Alzheimer's Disease	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Current Alzheimer Research	6. 最初と最後の頁 925 ~ 938
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2174/1567205018666211117100342	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Hashioka Sadayuki, Wu Zhou, Klegeris Andis	4. 巻 19
2. 論文標題 Glia-Driven Neuroinflammation and Systemic Inflammation in Alzheimer's Disease	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Current Neuropharmacology	6. 最初と最後の頁 908 ~ 924
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2174/1570159X18666201111104509	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Inoue Ken, Seksenbayev Nursultan, Moldagaliyev Timur, Noso Yoshihiro, Takeichi Nobuo, Ohira Yoshiyuki, Sarsembina Zhannat, Ospanova Nargul, Kawano Noriyuki, Takeshita Haruo, Hoshi Masaharu	4. 巻 71
2. 論文標題 Adequate measures to prevent medical personnel from contracting COVID-19 should be promptly implemented: support from numerous agencies is needed	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Maritime Health	6. 最初と最後の頁 296 ~ 296
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5603/IMH.2020.0050	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Inoue Ken, Seksenbayev Nursultan, Moldagaliyev Timur, Takeichi Nobuo, Noso Yoshihiro, Sarsembina Zhannat, Ospanova Nargul, Takeshita Haruo, Ohira Yoshiyuki, Kawano Noriyuki, Hoshi Masaharu	4. 巻 71
2. 論文標題 Changes in university classes as COVID-19 continues and new findings regarding future university instruction methods: from the perspective of Japan and Semey, Republic of Kazakhstan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Maritime Health	6. 最初と最後の頁 297 ~ 297
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5603/IMH.2020.0051	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Luli van der Does, Kawano Noriyuki	4. 巻 18
2. 論文標題 Online tourist reviews and accidental conveyors of memories of the atomic bomb	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Tourism and Cultural Change	6. 最初と最後の頁 514 ~ 531
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/14766825.2019.1702048	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Zhumalina A.G., Sambayev E.K., Sakaguchi A., Endo S., Tanaka K., Kajimoto T., Kawano N., Suleimenov T.B., Zhumadilov K.Sh., Hoshi M.	4. 巻 4
2. 論文標題 Comparison of aluminum and manganum concentration in Akmola region, Kazakhstan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Eurasian Journal of Physics and Functional Materials	6. 最初と最後の頁 29 ~ 37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.29317/ejpfm.2020040104	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Inoue Ken, Hashioka Sadayuki, Kawano Noriyuki	4. 巻 32
2. 論文標題 Risk of an Increase in Suicide Rates Associated With Economic Downturn due to COVID-19 Pandemic	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Asia Pacific Journal of Public Health	6. 最初と最後の頁 367 ~ 367
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/1010539520940893	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Otani Keiko, Ohtaki Megu, Fujimoto Nariaki, Saimova Aisulu, Chaizhunusova Nailya, Rakhypbekov Tolebay, Sato Hitoshi, Kawano Noriyuki, Hoshi Masaharu	4. 巻 17
2. 論文標題 Quantitative Analysis of Effects of a Single 60Co Gamma Ray Point Exposure on Time-Dependent Change in Locomotor Activity in Rats	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health	6. 最初と最後の頁 5638 ~ 5638
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph17165638	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Stepanenko Valeriy, Kaprin Andrey, Ivanov Sergey, Fujimoto Nariaki, Sato Hitoshi, Shichijo Kazuko, Nakashima Masahiro, Sakaguchi Aya, Toyoda Shin, Kawano Noriyuki, Ohtaki Megu, Otani Keiko, Endo Satoru, Yamamoto Masayoshi, Hoshi Masaharu	4. 巻 59
2. 論文標題 Internal doses in experimental mice and rats following exposure to neutron-activated 56MnO2 powder: results of an international, multicenter study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Radiation and Environmental Biophysics	6. 最初と最後の頁 683 ~ 692
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00411-020-00870-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 ヴァシレヴァ ヴラデサヤ ピラノヴァ、和泉 志津恵、川野 徳幸	4. 巻 42
2. 論文標題 被爆者のアメリカ政府への思いに関する一考察：2009年日本被団協アンケート調査の自由記述回答に注目して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 広島平和科学	6. 最初と最後の頁 61～79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/50787	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 ファンデルドゥース ルリ、川野 徳幸	4. 巻 42
2. 論文標題 なぜ、被爆者は証言するのか：被爆75年アンケート調査結果を用いた数理モデル構築の試み	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 広島平和科学	6. 最初と最後の頁 123～143
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/50790	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 ファンデルドゥース ルリ、川野 徳幸	4. 巻 42
2. 論文標題 被爆体験継承の可能性を探る：「被爆75年学生平和意識調査」の多領域横断型研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 広島平和科学	6. 最初と最後の頁 145～173
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/50791	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 平林今日子	4. 巻 50(2)
2. 論文標題 カザフスタンにみる旧ソ連核実験被害援護措置	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 環境と公害	6. 最初と最後の頁 32～37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Bai Jie, Yokomizo-Nakano Takako, Kubota Sho, Sun Yuqi, Kanai Akinori, Imori Mihoko, Harada Hironori, Iwama Atsushi, Sashida Goro	4. 巻 40
2. 論文標題 Overexpression of Hmga2 activates Igf2bp2 and remodels transcriptional program of Tet2-deficient stem cells in myeloid transformation	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Oncogene	6. 最初と最後の頁 1531 ~ 1541
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41388-020-01629-w	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Hirano Tetsuo, Tsuruda Tomomi, Tanaka Yuka, Harada Hironori, Yamazaki Takeshi, Ishida Atsuhiko	4. 巻 1868
2. 論文標題 Long noncoding RNA CCDC26 as a modulator of transcriptional switching between fetal and embryonic globins	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Biochimica et Biophysica Acta (BBA) - Molecular Cell Research	6. 最初と最後の頁 118931 ~ 118931
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.bbamcr.2020.118931	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 竹峰誠一郎	4. 巻 1
2. 論文標題 核汚染が広がる地球 被爆地広島と結んで	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 戦争と平和を考えるNHKドキュメンタリー	6. 最初と最後の頁 162 ~ 165
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹峰誠一郎	4. 巻 50(2)
2. 論文標題 世界の核実験被害補償制度の掘り起こしと国際比較研究 核兵器禁止条約を踏まえて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 環境と公害	6. 最初と最後の頁 8 ~ 13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sambayev Y. K., Zhumalina A. G., Zhumadilov K. Sh., Sakaguchi A., Kajimoto T., Tanaka K., Endo S., Kawano N., Hoshi M., Yamamoto M.	4. 巻 323
2. 論文標題 Temporal variation of atmospheric ⁷ Be and ²¹⁰ Pb concentrations and their activity size distributions at Astana, Kazakhstan in Central Asia	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Radioanalytical and Nuclear Chemistry	6. 最初と最後の頁 663 ~ 674
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10967-019-06968-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Nariaki Fujimoto, Arailym Baurzhan, Nailya Chaizhunusova, Gaukhar Amantayeva, Ynkar Kairkhanova, Dariya Shabdarbaeva, Yersin Zhunussov, Kassym Zhumadilov, Valeriy Stepanenko, Vyacheslav Gnyrya, Almas Azhimkhanov, Alexander Kolbayenkov, Masaharu Hoshi	4. 巻 52
2. 論文標題 Effects of Internal Exposure to ⁵⁶ MnO ₂ Powder on Blood Parameters in Rats	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Eurasian Journal of Medicine	6. 最初と最後の頁 52 ~ 56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5152/eurasianjmed.2020.19228	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Shichijo Kazuko, Takatsuji Toshihiro, Abishev Zhaslan, Uzbekov Darkhan, Chaizhunusova Nailya, Shabdarbaeva Dariya, Niino Daisuke, Kurisu Minako, Takahashi Yoshio, Stepanenko Valeriy, Azhimkhanov Almas, Hoshi Masaharu	4. 巻 8
2. 論文標題 Impact of Local High Doses of Radiation by Neutron Activated Mn Dioxide Powder in Rat Lungs: Protracted Pathologic Damage Initiated by Internal Exposure	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Biomedicines	6. 最初と最後の頁 171 ~ 171
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/biomedicines8060171	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Fujimoto Nariaki, Amantayeva Gaukhar, Chaizhunusova Nailya, Shabdarbayeva Dariya, Abishev Zhaslan, Ruslanova Bakhyt, Zhunussov Yersin, Azhimkhanov Almas, Zhumadilov Kassym, Petukhov Aleksey, Stepanenko Valeriy, Hoshi Masaharu	4. 巻 21
2. 論文標題 Low-Dose Radiation Exposure with ⁵⁶ MnO ₂ Powder Changes Gene Expressions in the Testes and the Prostate in Rats	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Molecular Sciences	6. 最初と最後の頁 4989 ~ 4989
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijms21144989	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Hoshi Masaharu	4. 巻 2020
2. 論文標題 Radiation exposure and health effects of the residents around the former Soviet Union nuclear test site in Kazakhstan -A new perspective: radioactive microparticles	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Impact	6. 最初と最後の頁 70～72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.21820/23987073.2020.3.70	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hoshi Masaharu	4. 巻 5
2. 論文標題 Radioactive microparticle effects found in animal experiments	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Innovation News Network	6. 最初と最後の頁 186～188
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Azumi Todaka, Shin Toyoda, Nariaki Fujimoto, Hitoshi Sato, Valeriy Stepanenko, Noriyuki Kawano, Nailiya Chaizhunusova, Darkhan Uzbekov, Ynkar Kairkhanova, Bakhyt Ruslanova, Zhaslan Abishev, Gaukhar Amantayeva, Dariya Shabdarbaeva, Kassym Zhumadilov, Almas Azhimkhanov, Masaharu Hoshi	4. 巻 37
2. 論文標題 ESR tooth enamel doses of rats and mice exposed to radioactive ⁵⁶ MnO ₂ dust	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Advances in ESR Applications	6. 最初と最後の頁 13～18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Shizue IZUMI, Michinori HATAYAMA, Takahiro MATSUMIYA, Hiroki ISHII	4. 巻 E306
2. 論文標題 Data science education practice that fosters zest for living - Disaster prevention data analysis exercise Proceedings of Disaster Prevention Research Institute (DPRI)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Kyoto University Annual Meeting 2021	6. 最初と最後の頁 1～3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 和泉志津恵、伊藤陽一、立森久照	4. 巻 1
2. 論文標題 医療ビッグデータを活用したデータサイエンス教育 - 産学協働の取組み	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 第27回大学教育研究フォーラム	6. 最初と最後の頁 15～31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Jaroslav KRASNY, Noriyuki KAWANO	4. 巻 41
2. 論文標題 Use of Nuclear Weapons and the Law of Armed Conflict	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Hiroshima Peace Science	6. 最初と最後の頁 73～84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 ファン・デルドゥース・ルリ、川野徳幸	4. 巻 41
2. 論文標題 「乗り物」を介した被爆体験の想起とトラウマの実証的考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 広島平和科学	6. 最初と最後の頁 13～31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 V.F. Stepanenko, K.Sh. Zhumadilov, M. Hoshi, Y.T. Zhunussov, S. Endo, M. Ohtaki, K. Otani, N. Fujimoto, K. Shichijo, N. Kawano, A. Sakaguchi, N.Z. Chaizhunosova, D.M. Shabdarbaeva, A. Baurzhan, V.S. Gnyrya, A.S. zimkhanov, A.D. Kaprin, S.A. Ivanov, E. Yaskova, I. Belukha, T. Kolyzhenkov, A.D. Petukhov, V. Bogacheva	4. 巻 95
2. 論文標題 Preliminary assessment of dose distribution on the spatial micro level for internal exposure of alveolar epithelium of rats by 56Mn	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Bulletin of the Karaganda University. "Physics" Series	6. 最初と最後の頁 59～63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.31489/2019Ph3/59-63	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Pinar Temocin and Noriyuki Kawano	4. 巻 17
2. 論文標題 Citizen Advocacy: The Achievements of New Zealand's Peace Activism	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Asia-Pacific Journal Japan Focus	6. 最初と最後の頁 1~8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 平林今日子	4. 巻 53
2. 論文標題 セミパラチンスク地区に居住する子どもとその保護者の核実験に対する認識について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 平和研究	6. 最初と最後の頁 89 ~ 108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takaoka Kensuke, Koya Junji, Yoshimi Akihideo, Toya Takashi, Kobayashi Takashi, Nannya Yasuhito, Nakazaki Kumi, Arai Shunya, Ueno Hironori, Usuki Kensuke, Yamashita Takeshi, Imanishi Daisuke, Sato Shinya, Suzuki Kenshi, Harada Hironori, Manabe Atsushi, Hayashi Yasuhide, Miyazaki Yasushi, Kurokawa Mineo	4. 巻 61
2. 論文標題 Nationwide epidemiological survey of familial myelodysplastic syndromes/acute myeloid leukemia in Japan: a multicenter retrospective study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Leukemia & Lymphoma	6. 最初と最後の頁 1688 ~ 1694
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/10428194.2020.1734595	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Harada Yuka, Shingai Naoki, Ding Ye, Sadato Daichi, Hayashi Yoshihiro, Yamaguchi Masaki, Okuyama Yoshiki, Shimoyama Tatsu, Ohashi Kazuteru, Harada Hironori	4. 巻 111
2. 論文標題 Gene rearrangements of MLL and RUNX1 sporadically occur in normal CD34+ cells under cytokine stimulation	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Cancer Science	6. 最初と最後の頁 1851 ~ 1855
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/cas.14392	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 原田 浩徳、萩原 政夫、名島 悠峰	4. 巻 61
2. 論文標題 低リスクMDSに対する治療選択	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 臨床血液	6. 最初と最後の頁 156 ~ 165
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11406/rinketsu.61.156	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 竹峰誠一郎	4. 巻 25
2. 論文標題 『加害 - 被害構造』論から迫るマーシャル諸島民に対する核実験被害 米公文書調査を踏まえて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 環境社会学研究	6. 最初と最後の頁 51 ~ 69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Apsalikov K. N., Lipikhina A., Grosche B., Belikhina T., Ostroumova E., Shinkarev S., Stepanenko V., Muldagaliev T., Yoshinaga S., Zhunussova T., Hoshi M., Katayama H., Lackland D. T., Simon S. L., Kesminiene A.	4. 巻 58
2. 論文標題 The State Scientific Automated Medical Registry, Kazakhstan: an important resource for low-dose radiation health research	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Radiation and Environmental Biophysics	6. 最初と最後の頁 1 ~ 11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00411-018-0762-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Ken Inoue, Nailya Zh. Chaizhunussova, Yoshihiro Noso, Nobuo Takeichi, Sadayuki Hashioka, Haruo Takeshita, Yasuyuki Fujita, Madina . Apbassova, Dariya . Shabdarbayeva, Gulnar . Berekenova, Masaharu Hoshi, Shotai Kobayashi, Yersin T. Zhunussov	4. 巻 21
2. 論文標題 A proposal of 4 criteria for future collaborative research between Kazakhsta and Japan: Focusing on Semey, Koch, Hiroshima and Nagasaki	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Science & Healthcare	6. 最初と最後の頁 106-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Nariaki Fujimoto, Arailym Baurzhan, Nailya Chaizhunusova, Gaukhar Amantayeva, Ynkar Kairkhanova, Dariya Shabdarbaeva, Yersin Zhunussov, Kassym Zhumadilov, Valeriy Stepanenko, Vyacheslav Gnyrya, Almas Azhimkhanov, Alexander Kolbayenkov, Masaharu Hoshi	4. 巻 52
2. 論文標題 Effects of Internal Exposure to 56MnO2 Powder on Blood Parameters in Rats	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Eurasian Journal of Medicine	6. 最初と最後の頁 52 ~ 56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5152/eurasianjmed.2020.19228	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kawai, A, Taniguchi, S, Li, HL, Izumi, S	4. 巻 -
2. 論文標題 A physical strength measurement and analysis system for elderly people using motion sensors	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Proceedings of the 10th IEEE Annual Ubiquitous Computing, Electronics & Mobile Communication Conference (UEMCON2019)	6. 最初と最後の頁 749 ~ 755
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 和泉志津恵、須江雅彦	4. 巻 12
2. 論文標題 社会人へのデータサイエンス教育の展開 - 対面講義・演習・オンライン講義をとおして -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 統計数理研究所共同研究レポートNo.431「統計教育実践研究」	6. 最初と最後の頁 148 ~ 153
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Izumi, S, Hatayama, M	4. 巻 E27
2. 論文標題 Utilization of large-scale disaster prevention data in data science education and research	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Proceedings of Disaster Prevention Research Institute (DPRI) Annual Meeting 2020	6. 最初と最後の頁 1 ~ 4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 和泉志津恵, 伊藤早苗, 谷川涼子, 永元哲治, 張田豊	4. 巻 8
2. 論文標題 データベース連結に関する問題と解決に向けた糸口	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 DOHaD研究	6. 最初と最後の頁 210 ~ 219
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Luli van der Does, Kawano Noriyuki	4. 巻 18
2. 論文標題 Online tourist reviews and accidental conveyors of memories of the atomic bomb	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Tourism and Cultural Change	6. 最初と最後の頁 514 ~ 531
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/14766825.2019.1702048	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Vasileva Vladisaya Bilyanova, Izumi Shizue, Kawano Noriyuki	4. 巻 14
2. 論文標題 Addressing the atomic bomb damage: Associations between 'state compensation' demands and aspects of survivors' suffering	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Global Policy	6. 最初と最後の頁 500 ~ 515
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/1758-5899.13231	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Stepanenko Valeriy, Sato Hitoshi, Fujimoto Nariaki, Shichijo Kazuko, Toyoda Shin, Kawano Noriyuki, Endo Satoru, Kaprin Andrey, Ivanov Sergey, Shegay Peter, Petukhov Alexey, Kolyzhenkov Timofey, Bogacheva Victoria, Chaizhunusova Nailya, Shabdarbaeva Dariya, Zhumadilov Kassym, Hoshi Masaharu	4. 巻 63
2. 論文標題 External dose estimates of laboratory rats and mice during exposure to dispersed neutron-activated ⁵⁶ Mn powder	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Radiation Research	6. 最初と最後の頁 i16 ~ i20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/jrr/rrac032	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Stepanenko Valeriy, Kaprin Andrey, Ivanov Sergey, Shegay Peter, Bogacheva Viktoria, Sato Hitoshi, Shichijo Kazuko, Toyoda Shin, Kawano Noriyuki, Ohtaki Megu, Fujimoto Nariaki, Endo Satoru, Chaizhunusova Nailya, Shabdarbaeva Dariya, Zhumadilov Kassym, Hoshi Masaharu	4. 巻 63
2. 論文標題 Microdistribution of internal radiation dose in biological tissues exposed to 56Mn dioxide microparticles	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Radiation Research	6. 最初と最後の頁 i21 ~ i25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/jrr/rrac023	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Stepanenko Valeriy, Kaprin Andrey, Ivanov Sergey, Shegay Peter, Sato Hitoshi, Toyoda Shin, Kawano Noriyuki, Fujimoto Nariaki, Endo Satoru, Bogacheva Viktoria, Kolyzhenkov Timofey, Khailov Artem, Zhumadilov Kassym, Zhumalina Aidana, Yerimbetova Dana, Hoshi Masaharu	4. 巻 63
2. 論文標題 Estimation of 'dose-depth' profile in the surface layers of a quartz-containing tile from the former Hiroshima University building indicates the possible presence of beta-irradiation from residual radioactivity after A-bombing	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Radiation Research	6. 最初と最後の頁 i54 ~ i60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/jrr/rrac029	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Inoue Ken, Fujita Yasuyuki, Fukunaga Tatsushige, Kawano Noriyuki	4. 巻 63(3)
2. 論文標題 Specific measures to enhance suicide prevention in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Medicine, Science and the Law	6. 最初と最後の頁 2.58024E+12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/00258024221142660	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Inoue Ken, Fujita Yasuyuki, Takeshita Haruo, Kamura Masanori, Kawano Noriyuki	4. 巻 35
2. 論文標題 Discussion of the Urgent Problem of Young Carers in Japan	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Asia Pacific Journal of Public Health	6. 最初と最後の頁 235 ~ 236
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/10105395231151290	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Pinar Temocin, Ghulam Dastgir Khan, Noriyuki Kawano and Yuichiro Yoshida	4. 巻 43(2)
2. 論文標題 Community-based solid waste management: Case Studies in Kerala and Mumbai	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Indian Journal of Environmental Protection	6. 最初と最後の頁 134 ~ 141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Inoue Ken, Fujita Yasuyuki, Kawano Noriyuki, Fukunaga Tatsushige	4. 巻 63
2. 論文標題 Creating a system to quickly determine cause of death, and efforts that should be made to elucidate the circumstances of suicides	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Medicine, Science and the Law	6. 最初と最後の頁 339 ~ 340
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/00258024231154220	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 川野徳幸、ファンデルドゥース ルリ	4. 巻 44
2. 論文標題 「被爆77年学生平和意識オンライン調査」の集計結果及び若干の考察	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 広島平和科学	6. 最初と最後の頁 65 ~ 86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Ken Inoue, Yasuyuki Fujita, Sadayuki Hashioka, Yuri Murayama, Masanori Kamura, Haruo Takeshita, Takuji Inagaki, Noriyuki Kawano	4. 巻 23(98)
2. 論文標題 Specific reasons for prolonged or excessive school non-attendance among Japanese elementary and junior high school students and the need for effective countermeasures: Approaches and cooperation from various fields are important	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of St. Marianna Medical Institute	6. 最初と最後の頁 5 ~ 9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 HIRABAYASHI Kyoko	4. 巻 35
2. 論文標題 Support Measures for Victims of Soviet Nuclear Testing in Kazakhstan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 CPHU Research Report Series	6. 最初と最後の頁 82 ~ 92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hayashi Yoshihiro, Harada Yuka, Harada Hironori	4. 巻 36
2. 論文標題 Myeloid neoplasms and clonal hematopoiesis from the RUNX1 perspective	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Leukemia	6. 最初と最後の頁 1203 ~ 1214
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41375-022-01548-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Miyazaki Yasushi, Kiguchi Toru, Sato Shinya, Matsuda Mitsuhiro, Ichikawa Motoshi, Hata Tomoko, Yokota Kenichi, Ohtake Shigeki, Yamauchi Takahiro, Matsumura Itaru, Kiyoi Hitoshi, Naoe Tomoki, Miyazaki Yasushi, Usuki Kensuke, Harada Hironori, Maeda Tomoya, Ichikawa Motoshi, Honda Sumihisa	4. 巻 116
2. 論文標題 Prospective comparison of 5- and 7-day administration of azacitidine for myelodysplastic syndromes: a JALSG MDS212 trial	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Hematology	6. 最初と最後の頁 228 ~ 238
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s12185-022-03347-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田辺 季佐、安達 弘人、和田 敦司、岸田 侑也、内堀 雄介、野口 侑真、迎 純一、新谷 直樹、遠矢 高、清水 啓明、小林 武、名島 悠峰、原田 浩徳、坂巻 壽、大橋 一輝、原田 結花、山口 達郎、秋月 伸哉、土岐 典子、井ノ口 卓彦、遠藤 麻恵、西尾 優子、貞任 大地、神原 康弘、熱田 雄也、小沼 亮介	4. 巻 63
2. 論文標題 胚細胞腫瘍の治療後に続発したinv (16) を伴う急性骨髄性白血病発症を契機に診断されたKlinefelter症候群	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 臨床血液	6. 最初と最後の頁 746 ~ 752
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11406/rinketsu.63.746	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内田 智之、藤井 高幸、大原 慎、今井 唯、井上 盛浩、原田 結花、原田 浩徳、萩原 政夫	4. 巻 63
2. 論文標題 Novel germline SAMD9 mutation in an elderly patient with myelodysplastic syndrome	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 臨床血液	6. 最初と最後の頁 865 ~ 869
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11406/rinketsu.63.865	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mukae Junichi, Sadato Daichi, Toya Takashi, Watanabe Satoru, Hirama Chizuko, Konuma Ryosuke, Shimizu Hiroaki, Najima Yuhō, Kobayashi Takeshi, Kato Motohiro, Ohki Kentaro, Oboki Keisuke, Harada Hironori, Ohashi Kazuteru, Deguchi Takao, Harada Yuka, Doki Noriko	4. 巻 63
2. 論文標題 Labile CD22 and CD19 expression in a case of Philadelphia chromosome-like acute lymphoblastic leukemia	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Leukemia Lymphoma	6. 最初と最後の頁 3261 ~ 3264
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/10428194.2022.2116936	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Toya Takashi, Harada Hironori, Harada Yuka, Doki Noriko	4. 巻 12
2. 論文標題 Adult-onset hereditary myeloid malignancy and allogeneic stem cell transplantation	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Frontiers in Oncology	6. 最初と最後の頁 997530 ~ 997530
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fonc.2022.997530	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takase Shohei, Hiroyama Takashi, Shirai Fumiyuki, Nishigaya Yosuke, Sumiya Tatsunobu, Hashimoto Noriaki, Namie Ryosuke, Usui Masaya, Ohishi Tomokazu, Ohba Shun-ichi, Kawada Manabu, Hayashi Yoshihiro, Harada Hironori, Yamaguchi Tokio, Shinkai Yoichi, Nakamura Yukio, Yoshida Minoru, Ito Akihiro	4. 巻 14
2. 論文標題 A specific G9a inhibitor unveils BGLT3 lncRNA as a universal mediator of chemically induced fetal globin gene expression	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Nature Communications	6. 最初と最後の頁 23 ~ 23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41467-022-35404-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Konishi Tatsuya, Sadato Daichi, Toya Takashi, Hirama Chizuko, Kishida Yuya, Nagata Akihito, Yamada Yuta, Shingai Naoki, Shimizu Hiroaki, Najima Yuho, Kobayashi Takeshi, Haraguchi Kyoko, Okuyama Yoshiki, Harada Hironori, Ohashi Kazuteru, Harada Yuka, Doki Noriko	4. 巻 13
2. 論文標題 Impact of gene alterations on clinical outcome in young adults with myelodysplastic syndromes	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 2461 ~ 2461
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-023-29794-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ikeda Naoki, Kubota Hiroaki, Suzuki Risa, Kamatani Takashi, Tsunoda Tatsuhiko, Murakawa Miyako, Asahina Yasuhiro, Hayashi Yoshihiro, Harada Hironori, Shichino Shigeyuki, Tanaka Masato, Asano Kenichi	4. 巻 42
2. 論文標題 The early neutrophil-committed progenitors aberrantly differentiate into immunoregulatory monocytes during emergency myelopoiesis	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Cell Reports	6. 最初と最後の頁 112165 ~ 112165
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.celrep.2023.112165	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kobayashi Hiroki, Takase Shohei, Nishimura Haruna, Matsumoto Ken, Harada Hironori, Yoshida Minoru	4. 巻 114
2. 論文標題 RNAi screening reveals a synthetic chemical-genetic interaction between ATP synthase and PFK1 in cancer cells	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Cancer Science	6. 最初と最後の頁 1663 ~ 1671
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/cas.15713	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hayashi Yoshihiro, Harada Hironori	4. 巻 114
2. 論文標題 Mitochondrial dynamics as a pathobiological mediator of clonal myeloid disorders	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Cancer Science	6. 最初と最後の頁 2722 ~ 2728
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/cas.15810	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Katagiri Seiichiro, Furuya Nahoko, Akahane Daigo, Chi SungGi, Minami Yosuke, Harada Yuka, Harada Hironori, Gotoh Akihiko	4. 巻 16
2. 論文標題 Gilteritinib Affects the Selection of Dominant Clones in Clonal Hematopoiesis: Sequential Genetic Analysis of an FLT3-ITD Positive AML Patient with Long-Term Gilteritinib Therapy	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 OncoTargets and Therapy	6. 最初と最後の頁 571 ~ 576
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2147/OTT.S417137	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kambara Yasuhiro, Sadato Daichi, Toya Takashi, Haraguchi Kyoko, Shimizu Hiroaki, Najima Yuhu, Kobayashi Takeshi, Okuyama Yoshiki, Harada Hironori, Kurokawa Mineo, Harada Yuka, Doki Noriko	4. 巻 38
2. 論文標題 Recurrent DDX41 mutation in very late relapse after allogeneic stem cell transplantation	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Leukemia	6. 最初と最後の頁 667 ~ 670
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41375-024-02152-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 栗原 一也、酒井 知史、神原 康弘、大保木 啓介、原田 浩徳、奥山 美樹、原田 結花、貞賀 泰孝、加藤 千賀	4. 巻 65
2. 論文標題 再発時にPTPN11変異によるクローン交代を認めたFLT3-ITD変異陽性急性骨髄性白血病	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 臨床血液	6. 最初と最後の頁 63 ~ 68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11406/rinketsu.65.63	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Inoue Hiroki, Kanda Taku, Hayashi Gakuto, Munenaga Ryota, Hasegawa Jumpei, Wada Tomoyuki, Horiuchi Motoi, Harada Hironori, Tagaya Mitsuo	4. 巻 223
2. 論文標題 A MAP1B-cortactin-Tks5 axis regulates TNBC invasion and tumorigenesis	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Journal of Cell Biology	6. 最初と最後の頁 1 ~ 19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1083/jcb.202303102	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 竹峰 誠一郎	4. 巻 58
2. 論文標題 核兵器禁止条約がもつ可能性を拓く -世界の核被害補償制度の掘り起こしと比較調査を踏まえて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 平和研究	6. 最初と最後の頁 95 ~ 118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.50848/psaj.580005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Seiichiro TAKEMINE	4. 巻 35
2. 論文標題 Uncovering and Comparing Compensation Systems for Victims of the Use and Testing of Nuclear Weapons Worldwide: Taking the Treaty on the Prohibition of Nuclear Weapons into Account	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 CPHU Research Report Series	6. 最初と最後の頁 9 ~ 30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hoshi Masaharu	4. 巻 63
2. 論文標題 The overview of neutron-induced ⁵⁶ Mn radioactive microparticle effects in experimental animals and related studies	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Radiation Research	6. 最初と最後の頁 i1 ~ i7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/jrr/rrac020	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Stepanenko Valeriy, Kaprin Andrey, Ivanov Sergey, Shegay Peter, Bogacheva Viktoria, Hoshi Masaharu	4. 巻 63
2. 論文標題 Overview and analysis of internal radiation dose estimates in experimental animals in a framework of international studies of the sprayed neutron-induced ⁵⁶ Mn radioactive microparticles effects	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Radiation Research	6. 最初と最後の頁 i8 ~ i15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/jrr/rrac043	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Otani Keiko, Ohtaki Megu, Fujimoto Nariaki, Uzbekov Darkhan, Kairkhanova Ynkar, Saimova Aisulu, Chaizhunusova Nailya, Habdarbaeva Dariya, Azhimkhanov Almas, Zhumadilov Kassym, Stepanenko Valeriy, Hoshi Masaharu	4. 巻 63
2. 論文標題 Effects of internal exposure to neutron-activated 56MnO2 powder on locomotor activity in rats	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Radiation Research	6. 最初と最後の頁 i38 ~ i44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/jrr/rrac003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Zhumadilov Kassym, Ivannikov Alexander, Stepanenko Valeriy, Toyoda Shin, Kazymbet Polat, Kaprin Andrey, Ivanov Sergey, Shegay Peter, Endo Satoru, Hoshi Masaharu	4. 巻 63
2. 論文標題 Tooth enamel ESR dosimetry for Hiroshima 'black rain' zone residents	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Radiation Research	6. 最初と最後の頁 i61 ~ i65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/jrr/rrac024	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Ken Inoue, Noriyuki Kawano, Madina Apbassova, Satomi Kameo, Elaman Toleuov, Kamila Akkuzinova, Zhanna Karimova, Timur Moldagaliyev, Yasuyuki Fujita, Masaharu Hoshi	4. 巻 24
2. 論文標題 Study of suicide trends and some kind of factor in several Japan's prefectures: For the future study in the republic of Kazakhstan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Science & Healthcare	6. 最初と最後の頁 60 ~ 67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Obata Tsuneshi, Izumi Shizue	4. 巻 5
2. 論文標題 Analysis and visualization of team performances of football games	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Statistics and Data Science	6. 最初と最後の頁 885 ~ 898
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s42081-022-00173-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 和泉志津恵, 佐藤彰洋	4. 巻 15
2. 論文標題 医療メッシュ統計を活用したデザイン力の育成	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 統計数理研究所共同研究リポート No.466「統計教育実践研究」	6. 最初と最後の頁 94～99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 和泉志津恵	4. 巻 21
2. 論文標題 データ駆動型DS教育 -産学官の協働活動-	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 滋賀大学FD情報誌「su-L」	6. 最初と最後の頁 8～9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Inoue Ken, Fujita Yasuyuki, Kawano Noriyuki, Hoshi Masaharu, Fukunaga Tatsushige	4. 巻 64
2. 論文標題 Changes in the characteristics of suicide in Japan in the third year of the COVID-19 pandemic and the importance of continued suicide prevention measures	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Medicine, Science and the Law	6. 最初と最後の頁 82～83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/00258024231165432	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Mihara Yasuha, Otsuki Koji, Hayashi Mai, Yamashita Satoko, Nagahama Michiharu, Hayashida Maiko, Wake Rei, Hashioka Sadayuki, Abe Satoshi, Inagaki Masatoshi	4. 巻 1
2. 論文標題 Improvement in both severe obsessive-compulsive disorder and refractory tardive dystonia following electroconvulsive therapy: A case report	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports	6. 最初と最後の頁 1235～1240
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/pcn5.15	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 van der Does Luli	4. 巻 43
2. 論文標題 Turning a Disaster into Regenerative Strength: Hiroshima's Strategy for Societal Peace in the Anthropocene	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 War & Society	6. 最初と最後の頁 100 ~ 125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/07292473.2024.2282820	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計149件 (うち招待講演 40件 / うち国際学会 41件)

1. 発表者名 川野徳幸
2. 発表標題 核兵器禁止条約とヒロシマ
3. 学会等名 SDGsの促進と核兵器禁止条約 核兵器禁止条約締約国会議に向けての課題 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川野徳幸
2. 発表標題 「平和」とは何か: 平和学の視点から考える
3. 学会等名 ヴォーリズ学園 講演会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川野徳幸
2. 発表標題 被爆体験の継承から考える
3. 学会等名 世界遺産検定事務局主催世界遺産学習研究会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川野徳幸
2. 発表標題 「平和」とは何か
3. 学会等名 近江兄弟社高校講演会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川野徳幸
2. 発表標題 核兵器禁止条約とこれからの「ヒロシマ」を考える
3. 学会等名 広島県宗教連盟主催講演会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川野徳幸
2. 発表標題 被爆体験とはなにか、何を伝えるのか
3. 学会等名 令和3年度（2021年度）市民公開講座「被爆と心」を考える
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 川野徳幸
2. 発表標題 「ヒロシマ」の課題と平和観光の可能性
3. 学会等名 領域横断ワークショップ：平和研究と観光研究の接続のありかたを問い直す
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 平林今日子
2. 発表標題 カザフスタンにみる旧ソ連核実験被害援護措置
3. 学会等名 日本平和学会2021年秋季研究集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 ファンデルドゥース ルリ
2. 発表標題 記憶と記録 そして学生が被爆者に望むこと（被爆75年学生平和意識調査から）
3. 学会等名 韓国の原爆被害者を救援する市民の会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Luli van der Does
2. 発表標題 Shifting shades of victimhood discourse and the atomic-bomb survivors
3. 学会等名 EAJS 2021: 16th International Conference of the European Association of Japanese Studies（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 ファンデルドゥース ルリ
2. 発表標題 未来をつくる記憶学
3. 学会等名 HiGA Summer School 2021（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 ファンデルドゥース ルリ
2. 発表標題 更新する記憶と平和観
3. 学会等名 広島大学人間社会科学研究科設立記念セミナー，広島大学・ミュンスター大学国際ワークショップ「記憶」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 ファンデルドゥース ルリ
2. 発表標題 被爆体験と乗り物のトラウマ，そして（更新する）記憶
3. 学会等名 「被爆とこころ」を考える
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 ファンデルドゥース ルリ
2. 発表標題 「再訪」が示唆する可能性～2021年学生平和意識調査と全国ピースツーリズム意識調査結果から
3. 学会等名 領域横断ワークショップ：平和研究と観光研究の接続のありかたを問い直す（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 ファンデルドゥース ルリ
2. 発表標題 「原爆後の75年」が触発する研究の可能性～未来への記憶と忘却の視座から
3. 学会等名 「長崎原爆の戦後史をのこす会編『原爆後の75年：長崎の記憶と記録をたどる』（書肆九十九，2021年）を読む」（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Takashi Toya, Daichi Sadato, Yasuhiro Kanbara, Chizuko Hiram, Kyoko Haraguchi, Hiroaki Shimizu, Yuho Najima, Takeshi Kobayashi, Yoshiki Okuyama, Keisuke Oboki, Hironori Harada, Kazuteru Ohashi, Yuka Harada, Noriko Doki
2. 発表標題 Mutation Analysis of Very Late Relapse of Myeloid Malignancies after Stem Cell Transplantation
3. 学会等名 The 12th JSH International Symposium 2021
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大島 基彦, 高山 直也, 中島 やえ子, 小出 周平, 原田 浩徳, 原田 結花, Ye Ding, 明星 智洋, 岩間 厚志
2. 発表標題 Molecular pathogenesis in MDS stem and progenitor cells
3. 学会等名 第83回日本血液学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 林嘉宏, 青柳泰成, 松沼菜摘, 貞任大地, 原田結花, 原田浩徳
2. 発表標題 Excessive mitochondrial fragmentation as a fundamental trigger of ineffective hematopoiesis in MDS
3. 学会等名 第83回日本血液学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 貞任 大地, 平間 千津子, 小川 美奈, 大保木 啓介, 原田 浩徳, 原田 結花
2. 発表標題 骨髓塗抹標本を利用したターゲットシーケンスによる骨髓系腫瘍変異解析
3. 学会等名 第80回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 青柳 泰成, 林 嘉宏, 松沼 菜摘, 貞任 大地, 原田 結花, 原田 浩徳
2. 発表標題 ミトコンドリアダイナミクス制御異常を標的としたMDS骨髄不全症の新規治療戦略
3. 学会等名 第80回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 星正治, 遠藤暁, 藤本成明, 川野徳幸, 佐藤斉, 七條和子, 坂口綾, 恩田裕一, Polat Kazymbet, Sergazy Duyssembayev, Kassym Zhumadilov, Valeriy Stepanenko
2. 発表標題 カザフスタンのウラン鉱山近郊の大気中のエアロゾルの収集と測定及び放射性微粒子の影響研究
3. 学会等名 放射能環境動態・影響評価ネットワーク共同研究拠点2020年度オンライン年次報告会プログラム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 M. Hoshi, S. Duyssembayev, Z. Serikov, A. Klivenko, K. Zhumadilov, A. Zhumalina, P. Kazymbet, M. Bakhtin, A. Sakaguchi, M. Yamamoto, S. Endo, H. Satoh, S. Toyoda, N. Kawano
2. 発表標題 International collaboration between Kazakhstan and Japan- Studies with Shakarim University
3. 学会等名 Shakarim University Symposium (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Masaharu Hoshi
2. 発表標題 Overview of our studies of radiation effects in Kazakhstan
3. 学会等名 The 24th Hiroshima International Symposium "Research on radiation and its effects in Kazakhstan and other countries" (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Ken Inoue, Noriyuki Kawano, Nailiya Chaizhunussova, Nursultan Seksenbayev, Madina Apbassova, Nobuo Takeichi, Yoshihiro Noso, Masaharu Hoshi
2. 発表標題 Anxiety and fear about mental and physical health for radiation exposure in the people -importance of dissemination about correct knowledge based on the cooperation in various fields-
3. 学会等名 The 24th Hiroshima International Symposium "Research on radiation and its effects in Kazakhstan and other countries" (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 和泉志津恵
2. 発表標題 データ分析の基礎からAIの利活用へ - EBPMのさらなる推進 -
3. 学会等名 2021年度大津市データ分析基礎研修 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 和泉志津恵
2. 発表標題 「数理データサイエンスAI 応用基礎講座」 データサイエンス基礎第5回：分析設計
3. 学会等名 放送大学学園 BS・オンライン放送
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 和泉志津恵, 伊藤陽一, 松井茂之, 佐藤彰洋
2. 発表標題 「大学生のための医療統計学」教育プログラムとメッシュ統計の活用 次年度の活動計画
3. 学会等名 2021年度第2回統計数理研究所共同研究集会「世界メッシュコード研究会」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Inoue K, Chaizhunusova N, Seksenbayev N, Apbassova M, Moldagaliyev T, Ospanova N, Shabdarbayeva D, Noso Y, Takeichi N, Hoshi M, Kawano N, Zhunussov YT
2. 発表標題 Are risk factors for suicide and preventive measures for COVID-19 common in Japan and Kazakhstan?
3. 学会等名 XV INTERNATIONAL SCIENTIFIC-PRACTICAL CONFERENCE (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Apbassova M, Chaizhunusova N, Shabdarbayeva D, Inoue K
2. 発表標題 Suicide mortality in Semey region from 2014 till 2018 and 2019-2021
3. 学会等名 The 24th Hiroshima International Symposium "Research on radiation and its effects in Kazakhstan and other countries" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 三成綾, 高野由美子, 井上歩美, 松浦和基, 長濱道治, 大拙孝治, 林田麻衣子, 和氣玲, 橋岡禎征, 稲垣正俊
2. 発表標題 母子関係の密着から困難を抱えた女性の症例：風景構成法が示す空白領域について
3. 学会等名 第68回山陰精神神経学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 三原靖葉, 大拙孝治, 林真一郎, 林茉衣, 正岡浩, 伊藤司, 佐藤皓平, 伊豆原宗人, 三浦章子, 長濱道治, 林田麻衣子, 橋岡禎征, 稲垣正俊
2. 発表標題 原発性副甲状腺機能亢進症と精神症状 摘出術により著しい精神症状が改善した一例を通して
3. 学会等名 第117回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長濱道治, 河野公範, 林真一郎, 三原靖葉, 林茉衣, 正岡浩, 小池昌弘, 三浦章子, 山下智子, 大朮孝治, 林田麻衣子, 岡崎四方, 和氣玲, 橋岡禎征, 稲垣正俊
2. 発表標題 身体愁訴に対して抑肝散加陳皮半夏有用と思われたアルツハイマー型認知症の1例
3. 学会等名 第61回中国・四国精神神経学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川野徳幸
2. 発表標題 グローバル・ヒパク：セミパラチンスク地区核被害を中心に
3. 学会等名 Global Issues (広島女学院中学高等学校主催) (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 川野徳幸
2. 発表標題 核兵器禁止条約への被爆者の期待、これからのヒロシマの役割
3. 学会等名 シンポジウム「核兵器禁止条約と市民社会の果たす役割～核兵器廃絶へ向かうこれからの道のり～」(ANT - Hiroshima、ピースポート、平和首長会議 (公益財団法人平和文化センター) 主催 (招待講演))
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 平林今日子
2. 発表標題 カザフスタン・セミパラチンスク核実験場周辺地域の子どもたち
3. 学会等名 日本平和学会 関西地区研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 平林今日子
2. 発表標題 核実験被害援護措置の掘り起こしと 国際比較研究
3. 学会等名 オンライン公開研究会 < 共催：JEC（日本環境会議）環境問題セミナー >
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 丸毛淳史，貞任大地，原田結花，大塚友貴，小沼亮介，安達弘人，和田敦司，岸田侑也，小西達矢，永田啓人，山田裕太，野口侑真，迎純一，稲本恭子，遠矢嵩，五十嵐愛子，名島悠峰，小林 武，垣花和彦，原田浩徳，坂巻 壽，大橋一輝，土岐典子
2. 発表標題 非定型慢性骨髄性白血病4例の臨床的および遺伝的特徴
3. 学会等名 第82回日本血液学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 迎純一，遠矢嵩，貞任大地，渡部悟，平間千津子，小沼亮介，清水啓明，名島悠峰，小林武，加藤元博，大木健太郎，大保木啓介，原田浩徳，大橋一輝，出口隆生，原田結花，土岐典子
2. 発表標題 再発時に表面抗原の変化を認めた Ph-like 急性リンパ性白血病に対して同種移植をおこなった1例
3. 学会等名 第43回日本造血細胞移植学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 内堀雄介，遠矢嵩，貞任大地，平間千津子，神原康弘，熱田雄也，須崎賢，安達弘人，小沼亮介，和田敦司，岸田侑也，野口侑真，丸毛淳史，迎純一，新谷直樹，五十嵐愛子，清水啓明，名島悠峰，小林武，坂巻 壽，大保木啓介，原田浩徳，大橋一輝，原田結花，土岐 典子
2. 発表標題 同種造血幹細胞移植後晩期発症 EBV 関連リンパ増殖性疾患としての Burkitt リンパ腫の 一例
3. 学会等名 第43回日本造血細胞移植学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 竹峰誠一郎
2. 発表標題 世界の核実験被害補償制度の掘り起こしと国際比較研究 核兵器禁止条約を踏まえて
3. 学会等名 JEC (日本環境会議) 環境問題セミナー
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Masaharu Hoshi
2. 発表標題 Our animal experiments for the study of radiation influence - Radioactive microparticle effects- Our on going study as a collaboration with Kazakhstan team
3. 学会等名 The 2nd Hiroshima Kazakhstan International Medical Conference (online) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Nosono Y, Takeichi N, Itamochi T, Kirihara Y, Inoue K, Hoshi M
2. 発表標題 Multidisciplinary treatment experience for anaplastic thyroid cancer
3. 学会等名 The 2nd Hiroshima & Kazakhstan Medical Symposium in Kochi (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 星正治, 坂口綾, 恩田裕一, 遠藤暁, 藤本成明, 七條和子, 佐藤育, Valeriy Stepanenko
2. 発表標題 カザフスタンのウラン鉱山近郊の大気中のエアロゾルの収集と測定
3. 学会等名 放射能環境動態・影響評価ネットワーク共同研究拠点2020年度オンライン年次報告会 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 和泉志津恵
2. 発表標題 データ分析の基礎からAIの利活用へ - EBPMのさらなる推進
3. 学会等名 大津市データ分析基礎研修（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 和泉志津恵
2. 発表標題 経時的データ分析における時間を考慮した特徴の抽出と視覚化：テキスト解析入門
3. 学会等名 京都大学防災研究所第42回総合防災セミナー（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 ファンデルドゥース・ルリ
2. 発表標題 ツーリストが体験したい広島
3. 学会等名 ヒロシマ・ピースフォーラム「広島からの平和学」（公益財団法人広島平和文化センター・広島市立大学平和研究所連携講座第5回）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 ファンデルドゥース・ルリ
2. 発表標題 子どもだった被爆者－生きてきた記憶
3. 学会等名 市民公開講座「次世代への被爆体験継承－誰の視点で語るのか－」（広島大学平和センター主催・広島市平和文化センター平和記念資料館共催）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川野徳幸
2. 発表標題 飯館村を通して、「フクシマ」を考える
3. 学会等名 広島大学マスターズ講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 S. Izumi, T. Tonda, N. Kawano, and K. Satoh
2. 発表標題 Statistical model based text mining and visualization: application to longitudinally observed data
3. 学会等名 DSSV 2019（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川野徳幸
2. 発表標題 「平和」とは何か、広島大学の平和科目が目指すものとは何か
3. 学会等名 アフリカ・サヘル地域の青少年に対する教師教育を通じた平和構築と過激化抑制及び支援（UNESCO, IICBA, CICE主催）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川野徳幸
2. 発表標題 原爆被爆被害とは何か
3. 学会等名 58th OSEAL FORUM（ライオンズクラブ国際協会336複合地区主催）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川野徳幸
2. 発表標題 「平和」とは何か：「平和学」の視点から考える
3. 学会等名 創価大学平和講座（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Bai J, Yokomizo-Nakano T, Kubota S, Kanai A, Yuqi S, Harada H, Iwama A, Sashida G
2. 発表標題 Tet2 loss reshapes the binding regions of Hmga2 and promotes the development of MDS
3. 学会等名 The 15th International Symposium on Myelodysplastic Syndromes (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Bai J, Kubota S, Yokomizo T, Kanai A, Sun Y, Iimori M, Harada H, Nakagata N, Iwama A, Sashida G
2. 発表標題 Hmga2 Functions As an Oncogene upon the Deletion of Tet2 and Promotes the Pathogenesis of Myelodysplastic Syndrome
3. 学会等名 The 61th ASH Annual Meeting and Exposition (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 青柳泰成, 林嘉宏, 新谷直樹, 原田結花, 原田浩徳
2. 発表標題 骨髄不全症をきたす骨髄異形成症候群におけるミトコンドリア電子伝達系制御異常の役割
3. 学会等名 第78回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 指田吾郎, 横溝貴子, 久保田翔, 原田浩徳, 大里元美, 岩間厚志
2. 発表標題 Tet2欠損によるHmga2機能制御と骨髄異形成症候群発症の分子基盤
3. 学会等名 第78回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 林嘉宏, 青柳泰成, 新谷直樹, 原田結花, 原田浩徳
2. 発表標題 ミトコンドリア電子伝達系制御異常によるMDS骨髄不全症の発症機序
3. 学会等名 第81回日本血液学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 竹峰誠一郎
2. 発表標題 世界の核被害者に対する援助措置 広島・長崎、マーシャル諸島、セミパラチンスクの相互比較
3. 学会等名 日本平和学会春季研究大会 部会「核被害認定をめぐる歴史的・政治的背景」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Valeriy Stepanenko, Alexandra Lipikhina, Masaharu Hoshi
2. 発表標題 Data and samples already taken in Semipalatinsk's region for the use of dosimetry -Cs-137 and the other radioactivity
3. 学会等名 The International workshop for the radiation dosimetry and the risk estimation for the residents around the Semipalatinsk nuclear test site (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masaharu Hoshi
2. 発表標題 Our animal experiments using radioactive dust in Semipalatinsk
3. 学会等名 The 1st Hiroshima-Kazakhstan International Medical Symposium (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nobuo Takeichi, Yoshihiro Noso, Ken Inoue, Masharu Hoshi
2. 発表標題 Progress of thyroid cancer treatment and diagnosis in these 50 yeares, including the radiation problemes
3. 学会等名 The 1st Hiroshima-Kazakhstan International Medical Symposium (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masaharu Hoshi
2. 発表標題 Internal exposure experiments using radioactive microparticles
3. 学会等名 International scientific-practical conference dedicated to the 30th anniversary of “Nevada-Semey” International Antinuclear Movement (IAM “Nevada-Semey”) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masaharu Hoshi
2. 発表標題 Japan-Kazakhstan ongoing collaboration on dose reconstruction: main results and perspectives
3. 学会等名 International Symposium co-organised by NIIRME and IARC Low-Dose Radiation and Cancer: 70 years after the first test at Semipalatinsk nuclear test site (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Izumi, S
2. 発表標題 A strategy of data science education related sustainable development goals
3. 学会等名 Data Science Statistics and Visualization (DSSV2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Izumi, S, Hatayama, M
2. 発表標題 Utilization of large-scale disaster prevention data in data science education and research
3. 学会等名 Disaster Prevention Research Institute (DPRI) Annual Meeting 2020 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 和泉志津恵、須江雅彦
2. 発表標題 社会人へのデータサイエンス教育の展開 - 対面講義・演習・オンライン講義をとおして -
3. 学会等名 第 17 回 統計教育の方法論ワークショップ
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Luli van der Does
2. 発表標題 Tourists' Spontaneous Engagement to Conveying the Memories of Hiroshima: An Empirical Analysis
3. 学会等名 The Center for Peace Hiroshima University, RFMC Hokkaido University & Seoul National University Joint International Research Conference: Weaving Peace through Heritage Tourism (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ファンデルドゥース・ルリ
2. 発表標題 ピース・ツーリズムと当事者性・居場所感
3. 学会等名 広島大学平和センター主催2019年度国際シンポジウム HIROSHIMAとピースツーリズム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ファンデルドゥース・ルリ
2. 発表標題 ツーリストが体験したい広島
3. 学会等名 ヒロシマ・ピースフォーラム「広島からの平和学」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 川野徳幸
2. 発表標題 今あらためて「平和」を考える
3. 学会等名 ロシアのウクライナ侵攻後の「ヒロシマ」の課題と役割（招待講演）（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 川野徳幸
2. 発表標題 核をめぐる「理想」と「現実」のはざままで：あらためて「ヒロシマ」の使命を考える
3. 学会等名 第186回広島学講座（オンライン）（招待講演）（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 川野徳幸
2. 発表標題 混沌とする社会でヒロシマの役割を改めて考える
3. 学会等名 市民公開講座「混沌とする世界とヒロシマの今」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 平林今日子
2. 発表標題 カザフスタン・セミパラチンスク核実験場における被害
3. 学会等名 SDGs市民カレッジ 第2回SDGsと核と平和と人々（招待講演）（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 平林今日子
2. 発表標題 セミパラチンスク核被害者にたいする社会的保護法 現地調査を踏まえ
3. 学会等名 核被害者援助研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 新谷直樹，和田敦司，貞任大地，尾内大志，西 鳥暁彦，迎 純一，遠矢 嵩，清水啓明，名島悠峰，原田浩徳，坂巻 壽，大橋一輝，原田 結花，土岐典子
2. 発表標題 骨髄異形成症候群患者において免疫病態合併が同種移植の予後に与える影響についての検討
3. 学会等名 第44回日本造血・免疫細胞療法学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 迎 純一, 遠矢 嵩, 貞任大地, 平間千津子, 元井 亨, 加藤千賀, 酒井知史, 神原康弘, 熱田雄也, 小沼亮介, 中島詩織, 和田敦司, 内堀雄介, 尾内大志, 西島暁彦, 新谷直樹, 清水啓明, 名島悠峰, 小林 武, 大保木啓介, 原田浩徳, 坂巻 壽, 大橋一輝, 原田結花, 土岐典子
2. 発表標題 Bリンパ性急性転化した慢性好中性性白血病の1例
3. 学会等名 第44回日本造血・免疫細胞療法学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 加藤千賀, 名島悠峰, 貞任大地, 平間千津子, 酒井知史, 神原康弘, 小沼亮介, 熱田雄也, 和田敦司, 村上大介, 中島詩織, 内堀雄介, 尾内大志, 西島暁彦, 迎 純一, 新谷直樹, 遠矢 嵩, 清水啓明, 小林 武, 大保木啓介, 原田浩徳, 坂巻 壽, 大橋一輝, 原田結花, 土岐典子
2. 発表標題 急性骨髄性白血病に対する同種移植周術期のベネトクラクス併用救援療法の検討
3. 学会等名 第44回日本造血・免疫細胞療法学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中島詩織, 遠矢 嵩, 加藤千賀, 酒井知史, 神原康弘, 村上大介, 熱田雄也, 小沼亮介, 和田敦司, 内堀雄介, 尾内大志, 西島暁彦, 迎 純一, 新谷直樹, 清水啓明, 名島悠峰, 小林 武, 原田浩徳, 坂巻 壽, 大橋一輝, 土岐典子
2. 発表標題 末梢血幹細胞採取後に発症した骨髄異形成症候群の一例
3. 学会等名 第44回日本造血・免疫細胞療法学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松沼菜摘, 林 嘉宏, 青柳泰成, 新谷直樹, 原田結花, 原田浩徳
2. 発表標題 HMGA2 promotes the platelet-neutrophil complexes formation and causes organizing pneumonia in myelodysplastic syndromes
3. 学会等名 第81回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 林 嘉宏, 松沼菜摘, 青柳泰成, 新谷直樹, 原田結花, 原田浩徳
2. 発表標題 HMGA2-mediated platelet activation promotes neutrophil death and causes organizing pneumonia in MDS
3. 学会等名 第84回日本血液学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐々木優李, 清水啓明, 貞任大地, 加藤千賀, 酒井知史, 神原康弘, 熱田雄也, 小沼亮介, 和田敦司, 村上大介, 中島詩織, 内堀雄介, 濱村貴史, 西島暁彦, 新谷直樹, 遠矢 嵩, 名島悠峰, 小林 武, 原田結花, 原田浩徳, 大橋一輝, 土岐典子
2. 発表標題 TP53 gain-of-function or non- gain-of-function mutations in adult patients with myeloid neoplasms
3. 学会等名 第84回日本血液学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 尾内大志, 清水啓明, 貞任大地, 加藤千賀, 酒井知史, 神原康弘, 熱田雄也, 小沼亮介, 和田敦司, 村上大介, 中島詩織, 内堀雄介, 濱村貴史, 西島暁彦, 新谷直樹, 遠矢 嵩, 名島悠峰, 小林 武, 原田結花, 原田浩徳, 大橋一輝, 土岐典子
2. 発表標題 Poor treatment response to azacitidine in adult myelodysplastic syndrome patients with mutated NPM1
3. 学会等名 第84回日本血液学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Naoki Ikeda, Ayaka Iwata, Takashi Kamatani, Tatsuhiko Tsunoda, Yoshihiro Hayashi, Hironori Harada, Yuka Harada, Masato Tanaka, Kenichi Asano
2. 発表標題 Identification of differentiation pathway for neutrophil-like monocytes during emergency hematopoiesis
3. 学会等名 第51回日本免疫学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 青柳泰成, 林 嘉宏, 松沼菜摘, 小林大貴, 原田結花, 原田浩徳
2. 発表標題 ミトコンドリア動態異常に着目したクローン性造血およびMDSの新規診断法開発
3. 学会等名 第27回造血器腫瘍研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 大島基彦, 高山直也, 中島やえ子, 小出周平, 原田浩徳, 原田結花, 岩間厚志
2. 発表標題 クロマチン特性解析による骨髓異形成症候群の病態解明
3. 学会等名 第27回造血器腫瘍研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 濱村貴史, 貞任大地, 名島悠峰, 近藤花織, 貞賀泰孝, 加藤千賀, 酒井知史, 神原康弘, 小沼亮介, 熱田雄也, 島袋将志, 厚井聡志, 神宮寺敦史, 細田 譲, 尾内大志, 新谷直樹, 遠矢 嵩, 清水啓明, 小林 武, 原田浩徳, 原田結花, 土岐典子
2. 発表標題 DDX41変異を有する骨髓性腫瘍の移植症例における予後について
3. 学会等名 第45回日本造血・免疫細胞療法学会総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 新谷直樹, 貞任大地, 平間千津子, 近藤花織, 貞賀泰孝, 加藤千賀, 酒井知史, 神原康弘, 熱田雄也, 小沼亮介, 島袋将志, 神宮司淳史, 細田 譲, 厚井聡志, 尾内大志, 濱村貴史, 遠矢 嵩, 清水啓明, 名島悠峰, 小林 武, 原口京子, 奥山美樹, 原田浩徳, 原田結花, 土岐典子
2. 発表標題 Association of isolated trisomy 8 with graft-versus-host disease in patients with MDS
3. 学会等名 第45回日本造血・免疫細胞療法学会総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 加藤千賀, 新谷直樹, 貞任大地, 平間千津子, 近藤花織, 貞賀泰孝, 酒井知史, 神原康弘, 熱田雄也, 小沼亮介, 鳥袋将志, 神宮司淳史, 細田 讓, 厚井聡志, 尾内大志, 濱村貴史, 遠矢 嵩, 清水啓明, 名島悠峰, 小林 武, 原口京子, 奥山美樹, 原田浩徳, 原田結花, 土岐典子
2. 発表標題 Prognostic value of complex karyotype for transplant outcome in patients with MDS
3. 学会等名 第45回日本造血・免疫細胞療法学会総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 神原康弘, 遠矢 嵩, 貞任大地, 本田 晃, 加藤せい子, 平間千津子, 原口京子, 清水啓明, 名島悠峰, 小林 武, 大保木啓介, 奥山美樹, 大橋一輝, 原田浩徳, 高橋 聡, 黒川峰夫, 原田結花, 土岐典子
2. 発表標題 NGS analysis of 25 patients with very late relapse after allogeneic stem cell transplantation
3. 学会等名 第45回日本造血・免疫細胞療法学会総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 細田 讓, 名島悠峰, 貞任大地, 平間千津子, 貞賀泰孝, 近藤花織, 加藤千賀, 酒井知史, 神原康弘, 熱田雄也, 小沼亮介, 鳥袋将志, 神宮司淳史, 厚井聡志, 尾内大志, 濱村貴史, 新谷直樹, 遠矢 嵩, 清水啓明, 小林 武, 原口京子, 奥山美樹, 原田浩徳, 原田結花, 土岐典子
2. 発表標題 Analysis of transplant outcomes in TP53 mutation-positive myeloid neoplasm
3. 学会等名 第45回日本造血・免疫細胞療法学会総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 熱田雄也, 遠矢 嵩, 貞任大地, 平間千津子, 近藤花織, 貞賀泰孝, 加藤千賀, 酒井知史, 神原康弘, 小沼亮介, 鳥袋将志, 厚井聡志, 神宮司淳史, 細田 讓, 尾内大志, 濱村貴史, 新谷直樹, 清水啓明, 名島悠峰, 小林 武, 原田浩徳, 原田結花, 土岐典子
2. 発表標題 Three cases of normal karyotype AML harboring KMT2A rearrangement detected by NGS analysis
3. 学会等名 第45回日本造血・免疫細胞療法学会総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 近藤花織, 遠矢 嵩, 貞任大地, 平間千津子, 貞賀泰孝, 加藤千賀, 酒井知史, 神原康弘, 熱田雄也, 小沼亮介, 島袋将志, 神宮司淳史, 細田 讓, 厚井聡志, 尾内大志, 濱村貴史, 新谷直樹, 清水啓明, 名島悠峰, 小林 武, 原田浩徳, 原田結花, 土岐典子
2. 発表標題 A case of donor-derived NPM1 mutated AML after unrelated bone marrow transplant for CBFβ-MYH11 mutated AML
3. 学会等名 第45回日本造血・免疫細胞療法学会総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 尾内大志, 遠矢 嵩, 貞任大地, 平間千津子, 近藤花織, 貞賀泰孝, 加藤千賀, 酒井知史, 神原康弘, 熱田雄也, 小沼亮介, 島袋将志, 神宮司淳史, 細田 讓, 厚井聡志, 濱村貴史, 新谷直樹, 清水啓明, 名島悠峰, 小林 武, 原口京子, 奥山美樹, 原田浩徳, 原田結花, 土岐典子
2. 発表標題 AML with germline CEBPA mutations in the C-terminal region: A case report
3. 学会等名 第45回日本造血・免疫細胞療法学会総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 片桐誠一朗, 荒井勇弥, 若松昇平, 大月俊輔, 須藤ありさ, 森山 充, 山田晃子, 勝呂多光子, 浅野倫代, 吉澤成一郎, 赤羽大悟, 田中裕子, 古屋奈穂子, 藤本博昭, 岡部聖一, 後藤守孝, 伊藤良和, 原田結花, 原田浩徳, 後藤明彦
2. 発表標題 骨髓異形成症候群の遺伝子解析を契機に診断されたShwachman-Diamond syndrome
3. 学会等名 第18回日本血液学会関東甲信越地方会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 林 嘉宏, 原田浩徳
2. 発表標題 骨髓異形成症候群におけるミトコンドリア動態異常
3. 学会等名 第21回日本ミトコンドリア学会年会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名	Kato T, Najima Y, Sadato D, Hiram C, Kato K, Kondo K, Sadaga Y, Sakai S, Kambara Y, Nabe Y, Teshima K, Asano Y, Kurihara K, Jinguji A, Shimabukuro M, Ouchi F, Inai K, Koi S, Shingai N, Toya T, Shimizu H, Haraguchi K, Kobayashi T, Harada H, Okuyama Y, Harada Y, Doki N
2. 発表標題	Venetoclax-Based Therapy Before Allogeneic Hematopoietic Cell Transplantation for Acute Myeloid Leukemia/Myelodysplastic Syndromes
3. 学会等名	The 65th ASH Annual Meeting and Exposition (国際学会)
4. 発表年	2023年

1. 発表者名	Kanimura-Aoyagi Y, Harada Y, Kosuke Nomura K, Matsunuma N, Yuki K, Kobayashi H, Hayashi Y, Hijikata A, Harada H
2. 発表標題	MITOCHONDRIAL FRAGMENTATION IS A NEW THERAPEUTIC TARGET AND DIAGNOSTIC CRITERIA FOR MYELOYDYSPLASTIC SYNDROMES
3. 学会等名	3rd Regional Symposium On Myelodysplastic Syndromes (国際学会)
4. 発表年	2024年

1. 発表者名	遠矢 嵩, 神原 康弘, 貞任 大地, 本田 晃, 加藤 せい子, 平間 千津子, 原田 浩徳, 高橋 聡, 黒川 峰夫, 原田 結花, 土岐 典子
2. 発表標題	Recurrent DDX41 mutation in hematological neoplasms with very late relapse after allogeneic stem cell transplantation
3. 学会等名	第82回日本癌学会学術総会
4. 発表年	2023年

1. 発表者名	貞任 大地, 遠矢 嵩, 平間 千津子, 土岐 典子, 原田 浩徳, 原田 結花
2. 発表標題	Diagnosis for myeloid malignancies caused by non-canonical gene alteration using micro-CNA detection method
3. 学会等名	第82回日本癌学会学術総会
4. 発表年	2023年

1. 発表者名 野村 洸介, 原田 結花, 青柳 泰成, 松沼 菜摘, 森 洸貴, 和泉 綾, 小溝 悠太, 小林 大貴, 林 嘉宏, 土方 敦司, 土岐 典子, 萩原 政夫, 後藤 明彦, 原田 浩徳
2. 発表標題 Utility of mitochondria dynamics to differentiate myelodysplastic syndromes from other cytopenic conditions
3. 学会等名 第82回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 大島 基彦, 高山 直也, 中島 やえ子, 小出 周平, 原田 浩徳, 原田 結花, Ding Ye, 明星 智洋, 岩間 厚志
2. 発表標題 Chromatin accessibility in stem cells unveils progressive transcriptional reprogramming in MDS
3. 学会等名 第85回日本血液学会学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 青柳 泰成, 原田 結花, 野村 洸介, 松沼 菜摘, 森 洸貴, 和泉 綾, 小溝 悠太, 小林 大貴, 林 嘉宏, 土方 敦司, 土岐 典子, 萩原 政夫, 後藤 明彦, 原田 浩徳
2. 発表標題 Diagnosis of myelodysplastic syndromes based on mitochondria dynamics abnormalities
3. 学会等名 第85回日本血液学会学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 神宮寺 敦史, 清水 啓明, 貞任 大地, 加藤 可那, 近藤 花織, 貞賀 泰孝, 加藤 千賀, 酒井 知史, 神原 康弘, 奈邊 愛美, 手島 航, 浅野 雄哉, 栗原 一也, 島袋 将志, 大内 史彦, 稲井 一貴, 厚井 聡志, 新谷 直樹, 遠矢 嵩, 名島 悠峰, 原口 京子, 小林 武, 原田 浩徳, 奥山 美樹, 原田 結花, 土岐 典子
2. 発表標題 Acute myeloid leukemia with RANBP2-ALK rearrangement
3. 学会等名 第85回日本血液学会学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 近藤 花織, 名島 悠峰, 貞任 大地, 平間 千津子, 加藤 可那, 酒井 知史, 神原 康弘, 奈邊 愛美, 手島 航, 浅野 雄哉, 栗原 一也, 神宮寺 敦史, 島袋 将志, 大内 史彦, 稲井 一貴, 厚井 聡志, 新谷 直樹, 遠矢 嵩, 清水 啓明, 原口 京子, 小林 武, 原田 浩徳, 奥山 美樹, 原田 結花, 土岐 典子
2. 発表標題 Pre-transplant blinatumomab and/or inotuzumab ozogamicin versus conventional therapy for B-ALL
3. 学会等名 第85回日本血液学会学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 島袋 将志, 野口 侑真, 名島 悠峰, 貞任 大地, 平間 千津子, 加藤 可那, 近藤 花織, 貞賀 泰孝, 加藤 千賀, 酒井 知史, 神原 康弘, 奈邊 愛美, 手島 航, 浅野 雄哉, 栗原 一也, 神宮寺 敦史, 大内 史彦, 稲井 一貴, 厚井 聡志, 新谷 直樹, 遠矢 嵩, 清水 啓明, 原口 京子, 小林 武, 原田 浩徳, 奥山 美樹, 原田 結花, 土岐 典子
2. 発表標題 Retrospective analysis of leukemias with BCR::ABL1 fusion gene and ABL1 exon 4 deletion
3. 学会等名 第85回日本血液学会学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 加藤 千賀, 名島 悠峰, 貞任 大地, 平間 千津, 加藤 可那, 近藤 花織, 貞賀 泰孝, 酒井 知史, 神原 康弘, 奈邊 愛美, 手島 航, 浅野 雄哉, 栗原 一也, 神宮寺 敦史, 島袋 将志, 大内 史彦, 稲井 一貴, 厚井 聡志, 新谷 直樹, 遠矢 嵩, 清水 啓明, 原口 京子, 小林 武, 原田 浩徳, 奥山 美樹, 原田 結花, 土岐 典子
2. 発表標題 Venetoclax-based salvage therapy before allogeneic stem cell transplantation for AML/MDS
3. 学会等名 第85回日本血液学会学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 大内 史彦, 新谷 直樹, 名島 悠峰, 貞任 大地, 平間 千津子, 加藤 可那, 近藤 花織, 貞賀 泰孝, 加藤 千賀, 酒井 知史, 神原 康弘, 奈邊 愛美, 手島 航, 浅野 雄哉, 栗原 一也, 神宮寺 敦史, 島袋 将志, 稲井 一貴, 厚井 聡志, 遠矢 嵩, 清水 啓明, 原口 京子, 小林 武, 原田 浩徳, 奥山 美樹, 原田 結花, 土岐 典子
2. 発表標題 Effective salvage therapy with quizartinib and DLI in FLT3-mutated AML relapsed early after allo-HCT
3. 学会等名 第85回日本血液学会学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 貞任 大地, 遠矢 嵩, 平間 千津子, 土岐 典子, 原田 浩徳, 原田 結花
2. 発表標題 Micro-CNA detection with panel sequencing and its usefulness for diagnosis of myeloid malignancies
3. 学会等名 第85回日本血液学会学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Otuki S, Katagiri S, Arai Y, Wakamatu S, Moriyama M, Yamada A, Suguro T, Asano M, Yoshizawa S, Akahane D, Tanaka Y, Furuya N, Fujimoto H, Okabe S, Gotoh M, Ito Y, Harada Y, Harada H, Gotoh A
2. 発表標題 Comparison of IPSS-R and IPSS-M in newly diagnosed MDS: a single-center experience
3. 学会等名 第85回日本血液学会学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 酒井 知史, 名島 悠峰, 貞任 大地, 平間 千津子, 原口 京子, 加藤 可那, 近藤 花織, 貞賀 泰孝, 加藤 千賀, 神原 康弘, 奈邊 愛美, 手島 航, 浅野 雄哉, 栗原 一也, 神宮寺 敦史, 島袋 将志, 大内 史彦, 稲井 一貴, 厚井 聡志, 新谷 直樹, 遠矢 嵩, 清水 啓明, 小林 武, 大保木 啓介, 原田 浩徳, 奥山 美樹, 原田 結花, 土岐 典子
2. 発表標題 Gastrointestinal myeloid sarcoma with BCOR gene mutation acquired at relapse after transplant
3. 学会等名 第85回日本血液学会学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山川 理毅, 名島 悠峰, 貞任 大地, 平間 千津子, 原口 京子, 貞賀 泰孝, 新谷 直樹, 遠矢 嵩, 清水 啓明, 小林 武, 大保木 啓介, 原田 浩徳, 奥山 美樹, 原田 結花, 内藤 裕, 比島 恒和, 土岐 典子
2. 発表標題 Tirabrutinib monotherapy for recurrent Waldenstrom's macroglobulinemia with pleural infiltration
3. 学会等名 第85回日本血液学会学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 貞賀 泰孝, 名島 悠峰, 加藤 可那, 近藤 花織, 酒井 知史, 加藤 千賀, 神原 康弘, 奈邊 愛美, 手島 航, 浅野 雄哉, 栗原 一也, 神宮 寺 敦史, 島袋 将志, 大内 史彦, 稲井 一貴, 厚井 聡志, 新谷 直樹, 遠矢 嵩, 清水 啓明, 原口 京子, 小林 武, 原田 浩徳, 奥山 美樹, 土岐 典子
2. 発表標題 自家移植後中枢神経再発に対しサリドマイド療法継続し長期生存可能であった多発性骨髄腫の1例
3. 学会等名 第85回日本血液学会学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 平野 哲男, 田中 佑佳, 鶴田 智美, 原田 浩徳, 石田 敦彦
2. 発表標題 骨髄性白血病細胞、および赤芽球細胞分化における非コードRNA CCDC26の役割
3. 学会等名 第28回造血器腫瘍研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小林 大貴, 小溝 悠太, 渡邊 七海, 上村 (青柳) 泰成, 結城 加奈子, 林嘉宏, 原田 結花, 原田 浩徳
2. 発表標題 骨髄異形成症候群での血小板減少症治療薬同定
3. 学会等名 第28回造血器腫瘍研究会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 稲井 一貴, 清水 啓明, 加藤 可那, 近藤 花織, 貞賀 泰孝, 加藤 千賀, 酒井 知史, 奈邊 愛美, 浅野 雄哉, 手島 航, 神原 康弘, 栗原 一也, 大内 史彦, 島袋 将志, 藤原 熙基, 神宮寺 敦史, 新谷 直樹, 遠矢 嵩, 名島 悠峰, 原口 京子, 小林 武, 原田 結花, 原田 浩徳, 奥山 美樹, 土岐 典子
2. 発表標題 CAR T細胞療法後の無治療期間に卵子保存が可能であったB細胞性急性リンパ芽球性白血病同種移植症例
3. 学会等名 第46回日本造血・免疫細胞療法学会総会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 鳥袋 将志, 清水 啓明, 貞任 大地, 平間 千津子, 加藤 可那, 近藤 花織, 貞賀 泰孝, 加藤 千賀, 酒井 知史, 神原 康弘, 奈邊 愛美, 手島 航, 浅野 雄哉, 栗原 一也, 神宮寺 敦史, 大内 史彦, 藤原 熙基, 稲井 一貴, 新谷 直樹, 遠矢 嵩, 名島 悠峰, 原口 京子, 小林 武, 原田 浩徳, 奥山 美樹, 原田 結花, 土岐 典子
2. 発表標題 成人再発難治性B細胞性急性リンパ性白血病にtisagenlecleucelを投与した7例
3. 学会等名 第46回日本造血・免疫細胞療法学会総会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 手島 航, 清水 啓明, 加藤 可那, 近藤 花織, 貞賀 泰孝, 加藤 千賀, 酒井 知史, 神原 康弘, 奈邊 愛美, 浅野 雄哉, 栗原 一也, 神宮寺 敦史, 鳥袋 将志, 大内 史彦, 藤原 熙基, 稲井 一貴, 新谷 直樹, 遠矢 嵩, 名島 悠峰, 原口 京子, 小林 武, 原田 浩徳, 奥山 美樹, 土岐 典子
2. 発表標題 成人高リスク骨髄異形成症候群に対する同種移植におけるIWG 2023 response criteriaの有用性
3. 学会等名 第46回日本造血・免疫細胞療法学会総会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 酒井 知史, 名島 悠峰, 貞任 大地, 平間 千津子, 加藤 可那, 近藤 花織, 貞賀 泰孝, 加藤 千賀, 神原 康弘, 奈邊 愛美, 手島 航, 浅野 雄哉, 栗原 一也, 神宮寺 敦史, 鳥袋 将志, 大内 史彦, 稲井 一貴, 藤原 熙基, 新谷 直樹, 遠矢 嵩, 清水 啓明, 原口 京, 小林 武, 原田 浩徳, 奥山 美樹, 原田 結花, 土岐 典子
2. 発表標題 難治性CMLに対するアシミニブを用いた同種移植後維持療法
3. 学会等名 第46回日本造血・免疫細胞療法学会総会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 栗原 一也, 遠矢 嵩, 貞任 大地, 平間 千津子, 加藤 可那, 近藤 花織, 貞賀 泰孝, 加藤 千賀, 酒井 知史, 神原 康弘, 奈邊 愛美, 手島 航, 浅野 雄哉, 神宮寺 敦史, 鳥袋 将志, 大内 史彦, 藤原 熙基, 稲井 一貴, 新谷 直樹, 名島 悠峰, 清水 啓明, 原口 京子, 小林 武, 原田 浩徳, 奥山 美樹, 原田 結花, 土岐 典子
2. 発表標題 KMT2A関連の異常を有する造血器悪性腫瘍に対する同種造血幹細胞移植成績
3. 学会等名 第46回日本造血・免疫細胞療法学会総会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 大内 史彦, 名島 悠峰, 貞任 大地, 平間 千津子, 加藤 可那, 近藤 花織, 貞賀 泰孝, 加藤 千賀, 酒井 知史, 神原 康弘, 奈邊 愛美, 手島 航, 浅野 雄哉, 栗原 一也, 神宮寺 敦史, 島袋 将志, 稲井 一貴, 藤原 熙基, 原口 京子, 小林 武, 原田 浩徳, 奥山 美樹, 原田 結花, 土岐 典子
2. 発表標題 ステロイド抵抗性の慢性GVHDに対するイブルチニブ療法の有効性
3. 学会等名 第46回日本造血・免疫細胞療法学会総会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 藤原 熙基, 遠矢 嵩, 貞任 大地, 平間 千津子, 加藤 可那, 近藤 花織, 貞賀 泰孝, 加藤 千賀, 酒井 知史, 神原 康弘, 奈邊 愛美, 手島 航, 浅野 雄哉, 栗原 和也, 神宮寺 敦史, 島袋 将志, 大内 史彦, 稲井 一貴, 新谷 直樹, 清水 啓明, 名島 悠峰, 小林 武, 原田 浩徳, 原田 結花, 土岐 典子
2. 発表標題 フォロデシンによるブリッジング治療後に同種移植を行い完全寛解を得た末梢性T細胞性リンパ腫
3. 学会等名 第46回日本造血・免疫細胞療法学会総会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 古城 凱利, 名島 悠峰, 貞任 大地, 平間 千津子, 手島 航, 浅野 雄哉, 栗原 一也, 神宮寺 敦史, 島袋 将志, 大内 史彦, 稲井 一貴, 藤原 熙基, 新谷 直樹, 遠矢 嵩, 清水 啓明, 原口 京子, 小林 武, 原田 浩徳, 奥山 美樹, 原田 結花, 大保木 啓介, 土岐 典子
2. 発表標題 非血縁者間骨髄移植後再発時にレシピエント特異的HLA の欠失を認めた急性骨髄性白血病
3. 学会等名 第46回日本造血・免疫細胞療法学会総会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Kassym Zhumadilov, Aidana Zhumalina, Yernaz Sambayev, Yeldos Bekzhanov, Asel Bagramova, Tulegen Kusainov, Aya Sakaguchi, Satoru Endo, Shin Toyoda, Hitoshi Sato, Masaharu Hoshi
2. 発表標題 Study of ⁷ Be and ²¹⁰ Pb in atmosphere of Akmola region of Kazakhstan
3. 学会等名 The 24th Hiroshima International Symposium "Research on radiation and its effects in Kazakhstan and other countries" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kassym Zhumadilov, Alexander Ivannikov, Valeriy Stepanenko, Polat Kazymbet, Shin Toyoda, Masaharu Hoshi
2. 発表標題 ESR dosimetry study of victims of the Hiroshima atomic bombing: study of potential
3. 学会等名 The 24th Hiroshima International Symposium "Research on radiation and its effects in Kazakhstan and other countries" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yoshihiro Noso, Atsuko Imagawa, Akio Haruta, Motomi Ushiyama, Takashi Sawada, Laura Pak, Nailya Chaizhunossova, Ken Inoue, Nobuo Takeichi, Masaharu Hoshi
2. 発表標題 Trial of remote thyroid examination 10 years after the Fukushima nuclear power accident in COVID-19 pandemic
3. 学会等名 The 24th Hiroshima International Symposium "Research on radiation and its effects in Kazakhstan and other countries" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Keiko Otani, Megu Ohtaki, Nariaki Fujimoto, Darkhan Uzbekov, Ynkar Kairkhanova, Aisulu Saimova, Nailya Chaizhunossova, Dariya Habdarbaeva, Almas Azhimkhanov, Kassym Zhumadilov, Valeriy Stepanenko, Masaharu Hoshi
2. 発表標題 Effects of internal exposure to neutron-activated $^{56}\text{MnO}_2$ powder on locomotor activity in rats
3. 学会等名 The 24th Hiroshima International Symposium "Research on radiation and its effects in Kazakhstan and other countries" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Bakhyt Ruslanova, Nailya Chaizhunossova, Dariya Shabdarbayeva, Nariaki Fujimoto, Masaharu Hoshi
2. 発表標題 The effect of various doses of ionizing radiation on liver tissue in experiment
3. 学会等名 The 24th Hiroshima International Symposium "Research on radiation and its effects in Kazakhstan and other countries" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Zhaslan Abishev, Nailya Chaizhunosova, Dariya Shabdarbayeva, Nariaki Fujimoto, Masaharu Hoshi
2. 発表標題 The effects of internal and external exposure on morphological indicators and gene expression in lungs in experiment (rats and mice)
3. 学会等名 The 24th Hiroshima International Symposium "Research on radiation and its effects in Kazakhstan and other countries" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Nailya Chaizhunosova, Gauhar Amantayeva, Dariya Shabdarbayeva, Nariaki Fujimoto, Masaharu Hoshi
2. 発表標題 Influence of internal and external ionizing radiation on gene expression of the reproductive system in male laboratory animals
3. 学会等名 The 24th Hiroshima International Symposium "Research on radiation and its effects in Kazakhstan and other countries" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 M Hoshi, H Sato, A Sakaguchi, Y Omori, S Tokonami, K Zhumadilov, P Kazymbet, M Bakhtin, M Aumalikova
2. 発表標題 Radon and airborne dust measurements around Stepnogorsk. "Uranium and its health and biology and ecology of the population"
3. 学会等名 The IX Republican Scientific and Practical Conference with International Participation "Medical, Biological, and Environmental Problems in Uranium-Mining Regions (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Masharu Hoshi
2. 発表標題 Our recent study in Kazakhstan
3. 学会等名 Intenational Scientific-Practical Conference " Ecological Genetics and Population Health: Achievements and Prospects " (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 和泉志津恵
2. 発表標題 産学連携による「大学生のための医療統計学」の教育プログラムの開発と実践 -医療ビッグデータの活用-
3. 学会等名 第110回 データサイエンスセミナー 滋賀大学
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 和泉志津恵
2. 発表標題 地域の活性化に取り組むPBL演習のデザインの開発と実践-自治体との連携活動の成果-
3. 学会等名 第111回 データサイエンスセミナー 滋賀大学
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 和泉志津恵
2. 発表標題 地域課題の解決に向けた高大連携授業のデザインの開発と実践 -ドローンの活用-
3. 学会等名 第112回 データサイエンスセミナー 滋賀大学
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 和泉志津恵
2. 発表標題 データ駆動型DS教育 -産学官の協働活動-
3. 学会等名 令和4年度FD研修会 滋賀大学
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 和泉志津恵, 佐藤彰洋
2. 発表標題 「大学生のための医療統計学」教育プログラムにおける医療メッシュ統計の活用
3. 学会等名 2022年度統計数理研究所共同研究集会「地図・メッシュ・位置情報データのデータベース作成・統合と高度利用」 統計数理研究所
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 和泉志津恵, 佐藤彰洋
2. 発表標題 医療メッシュ統計を活用したデザイン力の育成
3. 学会等名 第20回 統計教育の方法論ワークショップ(JCOTS2023) 理数系教員授業力向上研修会(東京) 統計数理研究所
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Inoue K, Kawano N, Chaizhunusova N, Takeichi N, Noso Y, Apbassova M, Seksenbayev N, Toleuov E, Akkuzinova K, Karimova Z, Moldagaliyev T, Ospanova N, Shabdarbayeva D, Dyussupov A, Hoshi M
2. 発表標題 From the discussion of COVID-19 pandemic in Japan: To carry out epidemiological studies on suicide in trends of COVID-19 pandemic in the Republic of Kazakhstan
3. 学会等名 The 3rd Hiroshima & Kazakhstan Medical Symposium (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Inoue K, Chaizhunusova N, Kawano N, Noso Y, Hoshi M, Seksenbayev N, Apbassova M, Toleuov E, Akkuzinova K, Karimova Z, Moldagaliyev T, Ospanova N, Shabdarbayeva D, Takeichi N, Dyussupov A
2. 発表標題 Continuous our international exchange and research meeting in new style: Semey, Kochi and Hiroshima
3. 学会等名 The 3rd Hiroshima & Kazakhstan Medical Symposium (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名	Inoue K, Chaizhunosova N, Seksenbayev N, Toleuov E, Akkuzinova K, Karimova Z, Moldagaliyev T, Ospanova N, Apbassova M, Shabdarbayeva D, Takeichi N, Noso Y, Kawano N, Hoshi M, Dyussupov A
2. 発表標題	The importance of mental health care for children due to the influence of COVID-19 pandemic
3. 学会等名	The 3rd Hiroshima & Kazakhstan Medical Symposium (国際学会)
4. 発表年	2022年

1. 発表者名	Inoue K, Seksenbayev N, Apbassova M, Toleuov E, Akkuzinova K, Karimova Z, Noso Y, Takeichi N, Kawano N, Hoshi M, Fujita Y, Moldagaliyev T, Ospanova N, Shabdarbayeva D, Chaizhunosova N, Dyussupov A, et al.
2. 発表標題	Aiming to decrease fatigue and stress in people caused by effects of the long-term COVID-19 pandemic and some items: thinking about post COVID-19
3. 学会等名	International MED-Congress NCJSC (国際学会)
4. 発表年	2022年

1. 発表者名	橋岡禎征
2. 発表標題	グリアに着目したECTの治療効果発現メカニズムの解明
3. 学会等名	第118回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年	2022年

1. 発表者名	ファンデルドゥース ルリ
2. 発表標題	森富茂雄 記憶の景観 -多次元の戦争記憶-
3. 学会等名	消えた町 記憶をたどり 森富茂雄 鉛筆画の世界 スペシャルトークイベント (招待講演)
4. 発表年	2022年

1. 発表者名 ファンデルドゥース ルリ
2. 発表標題 「原爆後の75年」が触発する研究の可能性～未来への記憶と忘却の視座から
3. 学会等名 合評会「原爆後の75年」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 van der Does, L
2. 発表標題 G7とひろしまの記憶
3. 学会等名 G7広島サミットフォーラム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 van der Does, L
2. 発表標題 高校生とメディア・アイデンティティ～生きる力を育む知識と実践に向けて
3. 学会等名 新時代に対応した高等学校改革推進事業 広島市立美鈴が丘高校教育研究部（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 van der Does, L
2. 発表標題 Hiroshima's Resilience and the Regenerative Role of Education
3. 学会等名 CESA2023 13th Biennial Conference of the Comparative Education Society of Asia: Education in the Aftermath of Social Crisis （国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 ファンデルドゥース瑠璃
2. 発表標題 神崎清の視点、源泉、変遷
3. 学会等名 第20回ジェンダー史学会年次大会（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 van der Does, L
2. 発表標題 Hiroshima's Path to Reconstruction and Community Regeneration: focusing on women's contributions'
3. 学会等名 Bolstering Livelihoods: Digital Reskilling for Ukrainian woman evacuees in Poland, Winding-up webinar for your future success（国際学会）
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計26件

1. 著者名 ファンデルドゥース瑠璃, 山田 義裕・岡本 亮輔（編集）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 弘文堂	5. 総ページ数 284
3. 書名 いま私たちをつなぐもの	

1. 著者名 Luli van der Does, edited by Takayoshi Yamamura and Philip Seaton	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 158
3. 書名 War as Entertainment and Contents Tourism in Japan	

1. 著者名 原田結花, 原田浩徳他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 科学評論社	5. 総ページ数 711
3. 書名 血液内科	

1. 著者名 原田結花, 原田浩徳他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 科学評論社	5. 総ページ数 455
3. 書名 血液内科	

1. 著者名 林嘉宏, 原田浩徳	4. 発行年 2020年
2. 出版社 医歯薬出版株式会社	5. 総ページ数 120
3. 書名 医学のあゆみ	

1. 著者名 林嘉宏, 原田浩徳	4. 発行年 2020年
2. 出版社 日本臨牀社	5. 総ページ数 774
3. 書名 日本臨牀	

1. 著者名 竹村 彰通、姫野 哲人、高田 聖治、和泉 志津恵、市川 治、梅津 高朗、北廣 和雄、齋藤 邦彦、佐藤 智和、白井 剛、田中 琢真、槇田 直木、松井 秀俊	4. 発行年 2021年
2. 出版社 学術図書出版社	5. 総ページ数 240
3. 書名 データサイエンス入門 第2版	

1. 著者名 ファンデルドゥース ルリ、森富茂雄	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ヒロシマ・フィールドワーク実行委員会	5. 総ページ数 109
3. 書名 消えた町、記憶をたどり (Disappeared towns, tracing memories : drawing and testimonies by Shigeo Moritomi)	

1. 著者名 井上 英史、都筑 幹夫、原田浩徳ほか編著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京化学同人	5. 総ページ数 240
3. 書名 基礎講義 生物学	

1. 著者名 大西武雄、松本英樹、甲斐倫明、宮川清、柿沼志津子、西村恭昌、近藤隆、星正治ほか編著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 304
3. 書名 放射線医学の事典	

1. 著者名 Luli van der Does	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ヒロシマ・フィールドワーク実行委員会	5. 総ページ数 119
3. 書名 Disappeared Towns, Tracing Memories: Drawings and Testimonies by Shigeo Moritomi	

1. 著者名 村上征勝、金明哲、小木曾智信、和泉志津恵ほか編著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 850
3. 書名 文化情報学事典	

1. 著者名 川野徳幸	4. 発行年 2022年
2. 出版社 公益財団法人広島市文化財団	5. 総ページ数 15
3. 書名 『らしっく』vol163 青梅雨号	

1. 著者名 川野徳幸	4. 発行年 2022年
2. 出版社 公益財団法人平和文化センター	5. 総ページ数 16
3. 書名 『平和文化』第210号	

1. 著者名 川野徳幸	4. 発行年 2022年
2. 出版社 近江兄弟社中学校生徒会広報誌	5. 総ページ数 10
3. 書名 FUTURE vol. 9 ヴォーリズ学園100周年記念号	

1. 著者名 川野徳幸	4. 発行年 2022年
2. 出版社 一般社団法人日本私学大学連盟	5. 総ページ数 116
3. 書名 『大学時報』University Current Review vol. 407	

1. 著者名 原田浩徳、神田善伸 編集	4. 発行年 2022年
2. 出版社 中外医学社	5. 総ページ数 296
3. 書名 血液疾患診療ハンドブック	

1. 著者名 原田結花, 原田浩徳他、木崎昌弘, 鈴木律朗, 神田善伸, 大森司, 山崎宏人編集	4. 発行年 2022年
2. 出版社 中外医学社	5. 総ページ数 574
3. 書名 EBM血液疾患の治療	

1. 著者名 原田結花, 原田浩徳他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 日本医師会	5. 総ページ数 367
3. 書名 日本医師会雑誌特集号「血液疾患のすべて」151(特別号1)	

1. 著者名 原田結花, 原田浩徳他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 科学評論社	5. 総ページ数 775
3. 書名 血液内科85(5)	

1. 著者名 川端 浩, 清井 仁, 黒川峰夫, 高折晃史, 千葉 滋, 遠山 薫, 富田章裕, 中崎久美, 南谷泰仁, 原田浩徳, 張替秀郎, 松田 晃, 松村 到, 三谷絹子, 森田泰慶, 宮崎泰司他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業 特発性造血器障害に関する調査研究班	5. 総ページ数 78
3. 書名 骨髄異形成症候群の参照ガイド 令和4年改訂版	

1. 著者名 林嘉宏, 原田浩徳, 三牧正和編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 羊土社	5. 総ページ数 245
3. 書名 実験医学増刊 Vol.41 No.5	

1. 著者名 小林大貴, 原田結花, 原田浩徳他	4. 発行年 2023年
2. 出版社 科学評論社	5. 総ページ数 355
3. 書名 血液内科 第87巻第3号	

1. 著者名 原田浩徳, 原田結花, 祖父江 元編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 北隆館	5. 総ページ数 96
3. 書名 BIO Clinica 7	

1. 著者名 橋岡禎征, 稲垣正俊他、谷戸正樹編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 南江堂	5. 総ページ数 328
3. 書名 認知症・せん妄. すぐ見て・すぐわかり・すぐ使える眼科処方	

1. 著者名 van der Does Luli, edited by Takayoshi Yamamura, Philip Seaton	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 265
3. 書名 Engaging with War Memory: Legacies of East Asian Conflicts, 1930-1945	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	平林 今日子 (Hirabayashi Kyoko) (00634932)	京都大学・医学研究科・特定講師 (14301)	
研究分担者	v a n d e r D o e s L u l i (vanderDoes Luli) (00839087)	広島大学・平和センター・准教授 (15401)	
研究分担者	原田 浩徳 (Harada Hironori) (10314775)	東京薬科大学・生命科学部・教授 (32659)	
研究分担者	竹峰 誠一郎 (Takemine Seiichiro) (40523725)	明星大学・人文学部・教授 (32685)	
研究分担者	星 正治 (Hoshi Masaharu) (50099090)	広島大学・平和センター・名誉教授 (15401)	
研究分担者	和泉 志津恵 (大久保志津恵) (Izumi Shizue) (70344413)	滋賀大学・データサイエンス学系・教授 (14201)	
研究分担者	井上 顕 (Inoue Ken) (40469036)	高知大学・教育研究部医療学系臨床医学部門・教授 (16401)	
研究分担者	橋岡 禎征 (Hashioka Sadayuki) (00622523)	旭川医科大学・医学部・教授 (10107)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計5件

国際研究集会 The 2nd Hiroshima & Kazakhstan Medical Symposium in Kochi	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 The 2nd Hiroshima Kazakhstan International Medical Conference (online) - New topic for laparoscopic surgery and experimental model of radiation -	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 International Winter school -Approaches to Radioecology from Different Study Field-, Organised by L.N.Gumilyov Eurasian National University	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 The 1st Hiroshima-Kazakhstan International Medical Symposium	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 HIROSHIMA AND PEACE TOURISM	開催年 2019年～2019年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------